

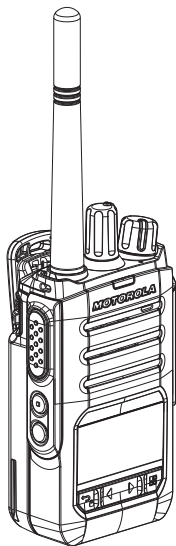


MOTOROLA SOLUTIONS

デジタル簡易業務無線 MiT3000（登録局）

無線局種別コード：3R
4 値 FSK 変調

取扱説明書



本書には、本機を安全にお使いいただくための操作方法、高周波エネルギーに関する注意、適用規格への準拠および関係法令の順守についての重要な情報が含まれています。

はじめに

安全上の
ご注意

各部の
名称と機能

操作のしかた
（拡張機能）

付
録

索
引

目次

はじめに	7
安全上のご注意	8
正しくご使用いただくために	14
無線局の登録申請について	15
構成品	15
リチウムイオン電池パック（アクセサリ）のリサイクルについて	15
各部の名称と機能	16
LED インジケーターの動作概要	18
アンテナの取り付け	18
ベルトクリップの取り付け	19
ハンドストラップの取り付け	19
電池パックの取り付け / 取り外し	20
電池パックの充電方法	21
デジタル簡易無線局について	23
コールチャンネル	23
受信専用上空用チャンネルモニター	23
キャリアセンス機能	24
通信について	25
通信の基本操作	27
個別通信設定と受信待ち受け画面について	32
キーロック機能	32
プログラムキー	33
スキャン機能	33
コールチャンネルボタン	34
セカンダリPTT（スキャンチャンネルのPTT 操作）	35
バックライト	35
音声案内（ボイスチャンネルアナウンス）	35
ワンタッチボリューム（ワンタッチで音量を下げる）	36
緊急動作	36
クイックアンサー	37
ローンワーカー（自動的に緊急モードが起動する機能）	37
簡易リスト一覧	38
リピート再生	39
録音メモ機能	40

クイックアンサー機能	42
スキャンチャンネル登録	43
イコライザー機能	44
ノイズキャンセル機能	45
インテリジェントオーディオライト機能	45
VOX 機能	46
個別通信時に便利な機能	47
自局情報	50
無線機情報	50
操作のしかた (拡張機能)	51
コールモード一覧	51
コールモードの設定	52
C01 通信方式	53
C02 UC	54
C03 UC ベル	55
C04 自局 ID	55
C05 グループ ID	56
C06 個別ベル	57
C07 グループベル	57
C08 個別宛先	58
C09 固定宛先	59
C10 緊急個別 ID	59
C11 通話タイマー	60
C12 秘話 ID	61
セットモード一覧	62
セットモードの設定	64
F01 ビープレベル	65
F02 外部マイク、F03 内部マイク	65
F04 ローター	66
F05 キーロック	66
F06 緊急モード	67
F07 TX ビープ、F08 RX ビープ	68
F09 送信出力	69
F10 弱電界アラーム	69
F11 不在着信ベル	70

目次

F12 アンサーバック.....	70
F13 電池アラーム.....	71
F14 クイックアンサー	71
F15 ワンタッチボリュウム.....	72
F16 CH 空き通知.....	72
F17 セミ VOX オペレーション.....	73
F18 VOX TX 保持時間.....	73
F19 TX AGC.....	74
F20 ACC 電源.....	74
F21 外部アクセサリタイプ.....	75
F22 PTT ホールド.....	77
F23 スキャンタイプ.....	78
F24 スキャンPTT.....	79
F25 スキャンRX.....	80
F26 スーパーセーブ.....	81
F27 自動電源 OFF	82
付録.....	83
故障かな?と思う前に	83
定格.....	84
アクセサリ一覧表.....	85
索引.....	86

デジタル簡易無線機の保証と責任

I. 保証対象及び保証期間：

本デジタル簡易無線機器は、モトローラの品質基準の基にモトローラ・ソリューションズ株式会社（以下「当社」といいます）で製造されたものです。

当社は、正常な使用状態で下記のデジタル簡易無線機器（以下「製品」といいます）の材料上又は製造上の欠陥に対し、ご購入日より以下に示す保証期間内の保証を行います。

無線機本体.....2 年間

当社は本保証規定に従い、保証期間内は無料で製品の修理（純正部品を用いて）、交換を致します。本体の保証期間に関しましては、お客様がご購入になった製品の保証期間で算定されます。交換した製品または部品は当社の所有となります。

本保証書は製品ご購入者に限り有効であり、第三者に譲渡されるものではありません。

当社役員による署名付きの書面での同意がある場合をのぞき、本保証書への追加及び変更に対して、当社はいかなる義務及び責任を負いません。当社と製品ご購入者の間で個別の同意がない限り、当社は製品の取り付け、メンテナンス又はサービスの保証は行いません。当社は、製品に装着又は接続して使用される当社及びモトローラ供給以外のアクセサリを使用した製品の運用に対し、いかなる責任も負いません。

通信システムで本製品が使用される場合、当社は、そのシステム全体、サービスエリア、運用等をまとめて本保証規定で保証するものではありません。

II. 保証規定：

本保証書は、製品に対する当社の責任と保証を定めたもので、一切の保証は保証期間内に限定されます。当社は当該製品の使用もしくは不使用に起因するご購入者の被る逸失利益、業務の中断、機会の損失やこれらに類する損害、または二次的損害等についての責任を負いません。

III. 以下は保証対象外となります：

- A) 製品を正常かつ通常の使用方法でお取り扱いにならないことよって生じた故障及び損傷。
- B) 誤った、又は乱暴なお取り扱い、事故、腐食、火災、水害、又は放置によって生じた故障及び傷。
- C) 誤った、又は認可されていないテスト、使用、メンテナンス、サービス、修理、取り付け、変更、修正、又は調整によって生じた故障及び損傷。
- D) 材料上又は製作上の欠陥に直接起因する以外の理由で生じたアンテナの破損及び損傷。
- E) 説明書に記載の使用方法に反するお取り扱いを受けた製品。
- F) 製品の性能に支障をきたす、又は正常な保証検査及び補償請求確認のため

デジタル簡易無線機の保証と責任

の製品テストを妨げるような、認可されていない改造、加工、分解、純正でない部品又は電池の使用と修理（当社が認可していない装置を使った製品に対する追加を含む）がなされた製品。

- G) 製造番号が取り除かれた、又は製造番号が判読できない製品。
- H) 利用者の修理が認められていない部品又はモジュールに付いたシールが外れている製品。
- I) 修理品発送に対する送料。
- J) 製品のソフトウェア / ファームウェアに不法又は無許可の変更が加えられている製品。
- K) 製品の運用に影響を与えない、製品の表面に付いた傷、又は外観上の損傷。
- L) 正常なご使用においての自然消耗、摩耗。
- M) 当社でプログラムされていないメモリーモジュール。
- N) 保証期間を過ぎた保証請求。

IV. 特許及びソフトウェア規定：

当社供給以外のソフトウェア、装置一式又はその一部を備えた製品又は部品の組み合わせに基づいた特許権の侵害請求に関して一切の責任を負いません。また、当社は製品に装着又は接続する、モトローラ供給以外の付属品又はソフトウェアの使用に対していかなる責任も負いません。上記は、製品又は部品に関し、特許権の侵害に関する当社の全責任を提示したものです。法律により、著作権で保護された当社のソフトウェアのコピー制作及びコピー流通の占有権など、当社の特定の占有権は保護されています。当社のソフトウェアは販売時に組み込まれている製品内でのみ使用されるものであり、当該製品の当該ソフトウェアはいかなる交換、コピー、流通、修正及び派生物の製造に使用されるものではありません。当該当社ソフトウェアの無制限の変更、修正、再生、流通、リバースエンジニアリング及び当該当社ソフトウェアが有する諸権利の行使などは禁じられています。当社の特許権又は著作権の元でない限り、いかなる許可も含意及び禁反言によって認められるものではありません。

V. 保証サービスの受け方：

保証サービスを受けるためには、ご購入を証明するもの（ご購入日と製品製造番号が明記されてあるもの）を添え、ご購入の販売店までご持参又は郵送してください。送料、保険はお客様のご負担になります。

VI. お問い合わせ先：

本保証規定に関してのご不明な点は下記までご連絡下さい。

モトローラ・ソリューションズ株式会社

PCR 事業部

コールセンター 0066-33-813730

https://www.motorolasolutions.com/ja_jp.html



はじめに

このたびはモトローラのデジタル簡易無線機「MiT3000」をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は MiT3000 の詳細な操作方法について説明した取扱説明書です。

■ ご注意

- ・この無線機は、職業上管理された状況での使用を意図した製品です。使用者は、自身の曝露に関する十分な知識を持ち、国際標準規格の職業曝露限度を守るよう自身の曝露を管理できる者を想定しています。一般消費者による本機の使用は認められていません。
- ・他人から頼まれて通信したり、他人の用件のために無線機を貸して使用することは電波法令で禁じられています。
- ・他人の通話を聞いて、これを漏らしたり悪用することは電波法令で禁じられています。
- ・本機は電波法令で定められた技術基準に適合（合格）していますので、分解や改造は電波法令で禁じられています。
- ・このデジタル簡易無線機は国内専用モデルです。海外では使用できません。

■ 本文中のマークの意味は次のようになっています。

	警告	この表示は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
	注意	この表示は「人が障害を負う可能性が想定される内容や物的損害の発生が想定される内容」を示しています。

安全上のご注意

■ 製品の安全性と電磁波による影響（携帯型無線機用）

本機を他の使用者に譲渡する場合には、使用者は、必ず本機の電磁波についての取り扱いが書かれた説明書（本書）を添えてください。

この無線機は、離れた2つの間の通信を提供するため、無線周波数帯の中の電磁エネルギー、すなわち電波を使用しています。無線通信用のエネルギーである高周波エネルギーは、電磁エネルギーの一形態であり、例えば日光やX線もその1つに含まれます。しかしながら、高周波エネルギーは、不適切に使用された場合に生物学的損傷を引き起こす可能性が高い電磁エネルギーと同じように考える必要はありません。（例えば、X線の非常に高いレベルは、組織および遺伝物質を損傷する可能性があります。）

モトローラの無線機は、以下の高周波エネルギーや電磁エネルギーのガイドラインに準拠しています。

- ・ 米国電気電子学会（IEEE）C95.1
- ・ 国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）

無線通信のための高周波エネルギーを安全に使用するため、科学、工学、医学、健康、そして産業分野に詳しい専門家が協力し、国際的な基準を策定しています。この基準はビジネスや一般的に使用される無線設備から放射される電波の推奨される値を提示しています。この値については、保護のため通常かなり余裕をもった値になっています。

すべてのモトローラの無線機は、こうした国際基準の値を満たすように設計、製造、およびテストされています。さらに、無線機の製造業者も無線機を使用されるお客様に安全にお使いいただけるような操作手順をお勧めしています。これらは高周波エネルギーについての知識をお客様にご理解いただき、無線機を安全に使用する方法についての簡単な手順を提供するために非常に重要なことです。

電磁波エネルギー曝露限度（電波が人体に与える影響において、人体が受けても差し支えない限度）について国際基準に準拠するには、以下の手順に従ってください。

- ・ 電磁波エネルギー曝露は、アンテナからの距離の増加と共に減少します。
- ・ 送信している間、人体暴露を与えています。連続送信するなど、50% 送信比率を超えないようにしてください。
- ・ 無線機本体やアンテナから鼻や唇が 2.5cm 以上離れた状態で、無線機のマイクが顔の前に来るようにして持ちます。アンテナは目から離れた状態にしておく必要があります。
- ・ モトローラ純正のアクセサリをご使用ください。





高周波エネルギー曝露は、アンテナからの距離の増加と共に減少します。

- ・装着してのご使用について。人体に装着するときは、必ず、モトローラ純正の本機専用のクリップ、ホルダー、ホルスター、またはケースに装着してお使いください。モトローラ純正品以外のアクセサリをご使用になると、職業上管理された環境における高周波曝露の限界値を超える曝露レベルになる場合がありますので、純正の装着用アクセサリをお使いください。
- ・アンテナ、バッテリー、オーディオアクセサリについては、必ずモトローラ純正の付属品または交換用品をお使いください。純正品以外のアンテナ、バッテリー、アクセサリ（有線または無線）をご使用になると、適用される高周波曝露に関するガイドライン（IEEE、ICNIRP）を超える場合があります。

■ 航空機 / 医療機関について

機内、病院、および医療機関では外部電磁波エネルギーの影響を受けやすい機器を使用していることがあります。電源を切るよう指示されている場所では無線機の電源を切ってください。

■ ペースメーカー

米国先進医療技術工業会 (Advanced Medical Technology Association) (AdvaMed) は、無線機とペースメーカーの間の距離を少なくとも 15cm は維持することを推奨しています。ペースメーカーを着用されている方は本機のご使用を控えてください。やむを得ず無線機を利用する場合は必ず、無線機を着用のペースメーカーから少なくとも 15cm 離しておいてください。

何らかの理由により、妨害が生じていることが疑われる場合には、すぐに無線機のスイッチをオフにしてください。

無線機からの干渉の潜在的なリスクについて、医師に相談してください（不十分シールド医療機器が干渉を受けやすくなる場合があります）。

■ 補聴器

無線機は、一部の補聴器に干渉することがあります。干渉する場合は、使用している補聴器メーカーに相談してください。

■ その他の医療機器

その他の個人用医療機器を使用する場合は、メーカーに相談してください。

■ 安全運転について

運転中に無線機を使用しないでください。

道路交通法、第 71 条第 5 号の 5 の規定により運転中に無線機を手を持って使用することは禁止されています。

事故の原因になりますので、まず安全な路肩に寄せ、停車してから、通信をおこなってください。または、ハンズフリー用純正アクセサリのご使用を推奨しています。

安全上のご注意

■ 音量について

大きな音が原因による聴覚の障害については、最初は自覚することなく、後になって感じられることがあります。長時間大音量で受信すると聴覚に影響を与えますので、最小限音量で、また短時間で使用してください。

聴覚を保護するには、次の事をお守りください。

- ・最低限必要な音量で使用してください。
- ・周囲の騒音で聞こえない時のみ、音量を大きくしてください。
- ・ヘッドセットまたはイヤホンを接続する時は、音量を下げてください。
- ・長時間、大音量でヘッドセットやイヤホンを使用しないでください。
- ・ヘッドセットまたはイヤホンなしで無線機を使用する場合は、直接耳にスピーカーをあてないでください。

安全上のご注意



エアバッグ

- ・エアバッグの配線との干渉を避けるために、無線機の設置場所を、車両の製造元マニュアルを参照してください。
- ・エアバッグの部分、またはエアバッグが膨らむ場所に無線機を置かないでください。エアバッグは強い力で膨らみます。無線機がエアバッグの膨らむ場所に置かれている場合、エアバッグが膨らみますと無線機が強い力で押され、車の搭乗者がけがをする原因となります。



発破区域での使用

- ・発破区域および雷管の近くでは無線機の電源を切ってください。
- ・爆発に影響を与えないよう、「発破危険」のように表示されている場所では、無線機の電源を切ってください。
- ・爆発の恐れのある場所に立ち入る場合、立ち入る前に無線機の電源を切ってください。
- ・爆発のおそれのある場所とは、ボートのデッキの下などの燃料補給・貯蔵場所、燃料や化学薬品の運送または貯蔵施設、および、空気中に穀物、ほこりや金属粉末などの化学物質や粒子が含まれている領域など、危険なガス、蒸気、または埃がある可能性があり、危険であると分類され、とりわけ爆発のおそれのある場所のことを言います。
- ・爆発の可能性のある場所での、取り付け、取り外し、および充電をしないでください。火花が散ることによってそれが爆発や火災の原因となり、身体的な損傷や死亡につながる恐れがあります。



アンテナ

アンテナが壊れている無線機は使用しないでください。

壊れているアンテナの導体が皮膚に触れ、送信した場合、軽いやけどをすることがあります。



電池/パック

すべての電池は、物的損害または傷害を引き起こす可能性があります。電池/パックは、金属製のものと共にポケットなどに入れたり金属ケースに入れないでください。端子が他の金属製のものによりショートし、火傷、発火の危険があります。危険環境下で電池/パックを交換したり、充電しないでください。電池/パックの脱着時に端子から火花が飛び、爆発や火災の原因になることがあります。不正な修理をおこなったり、ラベルの貼り替えを行いますと、その機器の認定が無効となる場合があります。



静電気について

静電気が発生しやすい場所・条件でイヤホンをご使用される場合、静電気によって耳の皮膚に電気ショックを感じる場合があります。そのような場合はイヤホンを使用しないようにしてください。



アクセサリについて

- ・当社製機器は、ホームページのリストに掲載されるアクセサリが認定機関によって認定されています。アクセサリとの組み合わせは、厳密に遵守する必要があります。
- ・接触不良の原因となりますので、アクセサリを使用しないときには、アクセサリ端子カバーを付けてご使用ください。

■ その他の安全上の注意



運用場所について

ゴルフ場などの野外で無線機を使用中に雷鳴が聞こえた時は、落雷のおそれがありますので無線機を使用しないでください。



その他電子機器との混信

正しく設置されていない、また、十分にシールドされていない自動車の電子操作系統や娯楽用機器など、電磁波によって影響を受ける場合があります。その場合、それぞれの販売メーカーまたは販売店に、それらの設備が外部からの電磁波から適切にシールドされているかどうかご確認ください。また、自動車などに別途追加した設備についてもご確認ください。



衝撃

強い衝撃をあたえたり、投げつけたりしないでください。アンテナが破損することがありますので、無線機を持つときは、アンテナをつかまないうでください。

安全上のご注意



使用環境

- ・異常に温度が高くなるところや、直接雨や水のかかる場所に放置しないでください。変形や故障の原因になる場合があります。
- ・直射日光のあたる場所（自動車内）や高温になる所、極端な低温環境に無線機本体を置かないでください。変形や故障の原因になる場合があります。

■ 電池パックの取扱いについて

重要： 思わぬ怪我や損害を避けるために、電池/パックの保管と取扱は適切に行ってください。

ほとんどの電池/パックの問題は、不適切に取り扱ったか、もしくはダメージのある電池/パックを使用し続けたことに原因があります。

下記のガイドラインに従ってご利用ください。



- ・高温になる車の中などに充電電池を放置しないでください。
- ・電池/パックを落とさないでください。電池/パックを落とすことにより、特に固い床などでは、ダメージの潜在的な原因となります。
- ・分解、押しつぶす、穴をあける、裁断する、もしくは電池/パックの形状を変更するような試みはお止めください。
- ・電池/パックを水につからないようにしてください。水は電池/パック内部の回路に侵入する場合があります、腐食などを引き起こします。
- ・金属類を電池/パックに触れないようにしてください。もし金属類、たとえば貴金属装飾品などが端子に長期間触れたままの場合、電池/パックが高温になる場合があります。
- ・高温になる熱源には近づけないでください。過度の熱は無線機や電池/パックにダメージを与えます。高温はまた、電池/パックが故障したり、液漏れ、膨張の原因になる場合があります。
- ・濡れたり湿った電池/パックをドライヤーや電子レンジのような家電製品、もしくは熱源などで乾かすのは決してしないでください。

■ 取扱い上のお願ひ



- ・充電の際には専用の充電器を使用してください。
- ・電池/パックを使用しない場合には、無線機本体から外して湿気の少ない場所で保管してください。
- ・電源端子・充電端子をときどき乾いた綿棒などで、清掃してください。汚れていると接触不良の原因となる場合があります。
- ・無線機本体の清掃の際は、糸くずのつかない乾いた柔らかい布で汚れを落としてください。

- ・無線機を直接、洗剤の溶液の中に入れるようなことは絶対にしないでください。
- ・洗剤、溶剤、アルコールなどで無線機を清掃すると、無線機を傷つけたり破損したりすることがあります。

■ 防水性能について

本機は、IEC 国際規格 IP67（防塵等級 6※¹、防水等級 7※²）の防塵、防水性能を有しています。この性能を末永く確保していただくために、必ず、ご使用になる前に下記の項目をご確認ください。



- ・キーやボタンのラバー、アクセサリ端子の保護カバー、電池/パック接合部分などに、キズ、劣化、汚れがないか確認してください。
- ・海水砂泥などが付いたときは、ケースが損傷していないことを確認した上で、真水の溜め水で濯ぎ、すぐに乾いた布で拭き取ってください。
- ・本機の汚れを落とす際に、蛇口からの水を直接当てたり、高圧の洗浄機やエアダスターを使用したり、スチーム洗浄をおこなったりしないでください。
- ・本機は、水中での使用はできません。
- ・濡れている状態で充電しないでください。
- ・マイク、スピーカー部に尖ったものを差し込まないでください。
- ・水滴が付着した場合は放置せず水滴を拭き取ってください。
- ・雨の中や水滴が付いたままの電池/パックの取り付け / 取り外しや、アクセサリコネクターカバーの着脱は行わないでください。
- ・防水性能の記載がある付属品・アクセサリを除いては、防水性能を有しておりません。
- ・熱湯、温風（ドライヤーなど）を無線機にあてないでください。
- ・極端な温度の変化でのご利用は避けてください。結露のため内部が腐食し故障の原因になりますのでご注意ください。
- ・ご使用になる環境はそれぞれ異なりますので、全ての状態での防水性能を保証するものではありません。

製品本体の防水性能を維持するためには、異常の有無に関わらず保証期間経過後、1年に一度のメンテナンスをお勧めします（有償にて承ります）。過失等、故障内容によっては、保証期間内においても有償修理の対象となる場合があります。

※ 1：粉塵が内部に侵入しない。

※ 2：水深 1m の水没に 30 分間没しても有害な影響を受けないこと。

安全上のご注意

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form.

U.S. Pat. Nos. #5,870,405, #5,826,222, #5,754,974, #5,701,390, #5,715,365, #5,649,050, #5,630,011, #5,581,656, #5,517,511, #5,491,772, #5,247,579, #5,226,084 and #5,195,166.

正しくご使用いただくために

- ◎ 電池/パックはお引渡し時には、十分充電されていません。ご購入後は、必ず充電してからお使いください。
- ◎ 本機にマイクロホンなどを接続する際は、必ず当社純正アクセサリを使用してください。当社純正品以外のアクセサリを使用すると、故障や破損の原因になります。
当社純正品以外のアクセサリの使用が原因で生じた故障や破損、および事故などの損害については、弊社では一切責任を負いません。
- ◎ リチウムイオン電池/パックを充電する際は、必ず当社指定の充電器を使用してください。当社指定以外の充電器を使用すると、火災や故障の原因になります。
- ◎ 外部マイクロホンを取り付けた際は、コードを強く引き伸ばしたままにしないでください。コードの断線などにより、故障の原因になります。
- ◎ 直射日光や熱風の当たる場所、水のかかる場所に放置しないでください。
- ◎ 電波法により、無線機やマイクを分解・改造・指定以外の装置を接続することは禁じられています。
- ◎ 周囲温度が極端に高い場所、または極端に低い場所での使用は避けてください。
- ◎ 通話する際は、マイクから2.5センチ以上離して普通の声量で話してください。マイクと口元の距離が近かったり、声が大きかったりすると、音声割れたり、歪むことがあります。
- ◎ 運用が終わりましたら、電池/パックが消耗しないように、無線機の電源を切ってください。一週間以上使用しない場合は、無線機から電池/パックを外してください。
- ◎ 内部の点検・修理は、お買い上げいただきました販売店にご依頼ください。

無線局の登録申請について

本機をご使用になるには、電波法で定められている「無線局登録申請」を行い、登録状の交付を受けることが必要です。
詳しくはご購入の販売店にご相談ください。

注 意

登録状の交付を受けずに本機を運用し、電波を出した場合、電波法第9章110条に定められた罰則（一年以下の懲役又は百万円以下の罰金）が適用されますので、必ず無線局登録申請を行い、登録状の交付を受けた後に運用を行ってください。

安全上の
ご注意

構成品

- ◎ 無線機本体
- ◎ ベルトクリップ (CLIP-20)
- ◎ アクセサリー端子カバー
- ◎ 簡易操作ガイド

リチウムイオン電池パック（アクセサリ）のリサイクルについて

リチウムイオン電池/パックはリサイクルできます。
リチウムイオン電池/パックが不要になった場合は廃棄せずに、全国のリサイクル協力店、協力自治体、リサイクル協力事業者にご相談ください。



Li-ion

各部の名称と機能

①アンテナ端子

アンテナを接続します。

②PTT スイッチ (PTT)

押ししている間は通話、放すと待ち受けの状態になります。

③プログラム 1 キー (Ⓢ)

補足

希望の機能を割り付けることができます。

初期値は、短押しで録音 (p.40 参照)、長押しの割り付けはありません。

④プログラム 2 キー (Ⓢ)

希望の機能を割り付けることができます。

補足

初期値は、短押しで音声案内 (p.35 参照)、長押しで緊急機能が動作します (p.36 参照)。

⑤電源スイッチ / 音量調節ツマミ (Ⓢ)

右へまわすと電源が入り、更にまわすと音量の調節になります。
カチッと音がするまで左へまわし切ると電源が切れます。

⑥ロータリースイッチ (Ⓢ)

チャンネルを選択するときにまわします。

⑦LED インジケーター

受信中は通信方式により“緑色”“水色”“青色”または“白色”に点滅します。
送信中は“赤色”または“青色”に点灯します。
バッテリー消耗時は、“赤色”で点滅します。

⑧アクセサリ端子

アクセサリ端子カバーを外して、スピーカーマイク等のアクセサリを接続します。

⑨マイク

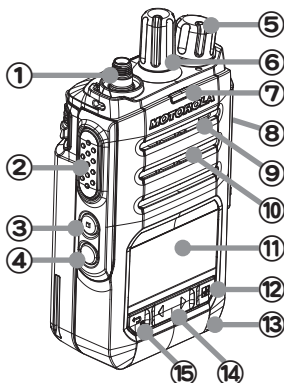
⑩スピーカー

⑪ディスプレイ



アイコン表示部

緊急状態 / 通信状態表示 / 電池残量表示



⑫ 選択 / 機能キー ( )

短く押すと簡易リスト (p.38 参照) を表示します。

押しながら電源を入れると拡張機能に移行します (p.51 参照)。

アイコン	アイコン説明	ページ
	アンテナ (電界強度表示 / 送信出力表示)	29
	受信時: 受信している電波の強さに応じて 4 段階で表示します。	30
	送信時: 送信出力別に 5W  、2.5W  、1W  が点灯します。	69
	秘話: 秘話機能が動作中に点灯します。	61
ID CH	ロータリースwitchの動作表示	66
	ID: 呼び先選択機能として動作します。 CH: チャンネル選択機能として動作します。	
	メッセージ: メッセージ送信中 / 受信中に点滅します。	49
	VOX (ボックス): VOX 機能が動作中に点灯します。	46
	セミ VOX オペレーション時は  が点灯します。	73
	録音メモ: 音声メモ機能が録音待機中、及び録音中に点灯します。	40
	キーロック: キーロック機能が動作中に点灯します。	32
	スキャン: スキャンチャンネルが登録 / 動作中に点灯します。 スキャン動作中に受信したチャンネルで点滅します。	33
	電池/パック残量: 電池/パックの残量を 5 段階で表示します。  →  →  →  →  (点滅)  と LED インジケーター (赤色) が点滅し警告音が「ピピッ」と鳴った時は、直ちに充電を行ってください。	71

⑬ ノイズキャンセリングマイク

周囲の騒音を抑えて、明瞭な音声を送信するために設けられています。

底面右下にある穴は塞がないようにしてください。

⑭ 左右選択キー (   )

簡易リストや拡張機能等で、左右選択キーとして動作します。

設定項目で数字が 3 桁以上の場合、“桁” 選択キーとして動作します。

個別通信では、ID 番号の選択キーとして動作します。

⑮ 戻るキー ( )

簡易リストや拡張機能等で、一つ上の階層に戻します。設定変更中に押すと、変更を確定しないで変更前の表示に戻ります。

チャンネル表示画面で 1 秒以上押すとキーロックになり、再度約 1 秒以上押すと解除されます (p.32 参照)。

各部の名称と機能

LED インジケータの動作概要

LED インジケータは通信状況・動作状況に応じて下記のように点灯・点滅します。

LED の色・状態	通信（動作）状態
緑色点滅	UC 通信受信時、他局通信
赤色点灯	UC 通信送信時、個別通信送信時
赤色点滅	電池アラーム機能動作中
青色点滅	秘話 UC 通信受信時、秘話個別通信受信時
青色点灯	秘話 UC 通信送信時、秘話個別通信送信時
水色点滅	個別通信受信時
水色点灯	UC 通信（キャリアセンス方式 2 選択時）時の応答待ち時間中（3 秒間） 個別通信および、秘話個別通信での通話タイマー設定時間内の時（および不在着信時）
白色点滅	緊急アラーム動作時および緊急信号着信時

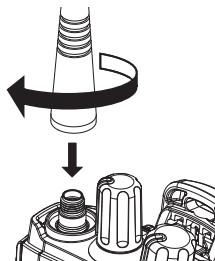
各部の
名称と
機能

アンテナの取り付け

アンテナコネクタに近い太い部分を持ち、時計まわりにしっかりと止まるまでまわします。

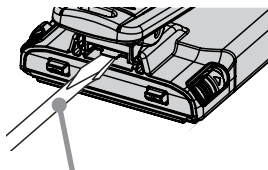


- アンテナの取り付け / 取り外し時には、アンテナの上部を持ってまわさないでください。アンテナ内部で断線することがあります。
- アンテナを外した状態で送信しないでください。送信回路が破損することがあります。

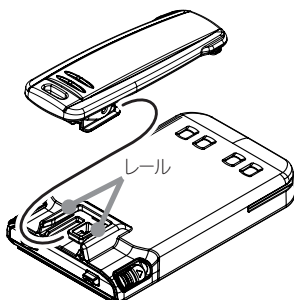


ベルトクリップの取り付け

ベルトクリップをレールにあわせカチッと音がするまで、確実にスライドします。



マイナスイドライバー



レール

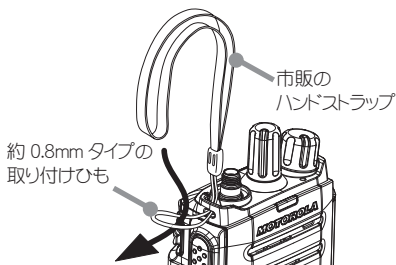


注意

ベルトクリップを外すときは、マイナスイドライバー等でロックレバーを押しながらスライドして外します。指を使うと爪をはがしてケガの原因になることがあります。

各部の
名称と
機能

ハンドストラップの取り付け



注意

- ハンドストラップの取り付けひもを取り付け穴に通しにくい場合は、ピンセット等で取り付けてください。
- 先端の取り付けひもは約 0.8mm タイプの丈夫なストラップを取り付けてください。また、粗悪なハンドストラップを取り付けると、ひもが切れて落下し故障やケガの原因になります。

各部の名称と機能

電池パックの取り付け / 取り外し

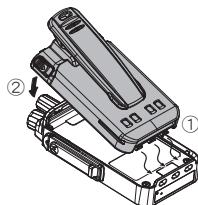
■ 電池パックを取り付ける

1. 本機の背面下部にある凹み部分に、電池パックの突起部分を差し込みます。
2. 電池パックの上面にある左右のロックを「カチッ」と音がするまで押しこみます。



注意

電池パックが確実に取り付けられていないと、落下事故や故障の原因になります。



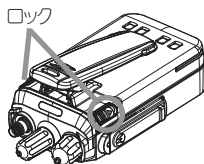
■ 電池パックを取り外す

電池パックの上部左右にあるロックを刻印の矢印方向▼に下げながら、電池パックを外します。



注意

ロックを外す時は、指や爪などを傷めないよう、十分に注意してください。



■ 使用済みの取り扱い

- ◎ 前面のプラス端子とマイナス端子及び背面の充電端子をテープ等で絶縁してください。
- ◎ 電池パックを分解しないでください。
- ◎ 電池パックはリサイクルできます。

電池パックが不要になった場合は廃棄せずに、全国のリサイクル協力店、協力自治体、リサイクル協力事業者にご相談ください。



**Li-ion
充電式**

■ 電池パックの持続時間

電池持続時間は常温 / 常湿において「送信出力 5W 時、送信 5 : 受信 5 : 待ち受け 90」の測定条件になります。周囲の温度により使用できる時間は異なります（極端な高温または低温の場所は使用時間が短くなります）。

電池パック	スーパーセーブ機能 OFF 時	スーパーセーブ機能 ON 時
FNB-V145LI	約 13 時間	約 16 時間
FNB-V144LI	約 8 時間	約 9.5 時間

電池パックの充電方法

アクセサリーの急速充電器セット（CD-70+PA-55A）で電池/パックを充電します。

電池パックの充電時間

LED インジケーター	FNB-V145LI	FNB-V144LI
90% 充電（緑色点滅）	約 150 分	約 90 分
充電完了（緑点点灯）	約 180 分	約 120 分

補足

電池/パックをお買い上げいただいたとき、または長い間使用しなかったときは、充電してからお使いください。

各部の
名称と
機能

■ お使いになる時のご注意

- ◎ 専用の AC アダプタ以外の電源は絶対に使用しないでください。
- ◎ 急速充電器セットは充電機能のみで、外部電源としての機能はありません。
- ◎ 充電は、周囲の温度が“+5℃～+35℃”の場所で行ってください。
- ◎ 規定の充電時間以上経っても充電が完了しない場合は、すぐに充電を終了してください。電池/パックの寿命です。新しい電池/パックに交換してください。
- ◎ 充電中にチャージャースタンドや AC アダプタが発熱する場合がありますが故障ではありません。
- ◎ 充電中にテレビやラジオにノイズが入ることがあります。できるだけ離してください。

■ 充電器（チャージャースタンド）の LED インジケーター

赤色点灯	急速充電中
赤色点滅	充電エラー（電池/パックの誤挿入、不良電池/パック、過充電など）
緑色点灯	充電完了
緑色点滅	90% 充電（もう少しで充電が完了します）
緑色点滅 （1 回）	CD-70 に PA-55A から電源が供給されたとき。
橙色点滅	予備充電（以下の原因が考えられます） - 電池/パックの電圧が低下している場合（新品または空の電池/パックの使用時など） 予備充電が終わると急速充電モードに移行します。 数分後に赤色点滅に切り替わる場合には、電池/パックの抜き差しを行って充電動作のリセットを行ってください。 （数回のリセット操作を行っても改善しない場合には、電池/パックの交換を行ってください。） - 電池/パックが充電温度範囲外である場合（低温、発熱、など） 上記の問題が解決されると、急速充電モードに移行します。

各部の名称と機能

■ 使用方法

1. CD-70 の背面にあるジャックに AC アダプタ“PA-55A”のコネクタを差し込み、電源プラグを“AC 100V”のコンセントに差し込みます。

補足

電源プラグをコンセントに差し込むと、LED インジケーターが緑色に 1 回点滅します。

2. 電池/パックを装着したトランシーバーの電源を切り、トランシーバー（または電池/パック単体）を CD-70 の充電口に差し込みます。

補足

電池/パックの溝を充電口のガイドレールに合わせて差し込みます。



注意

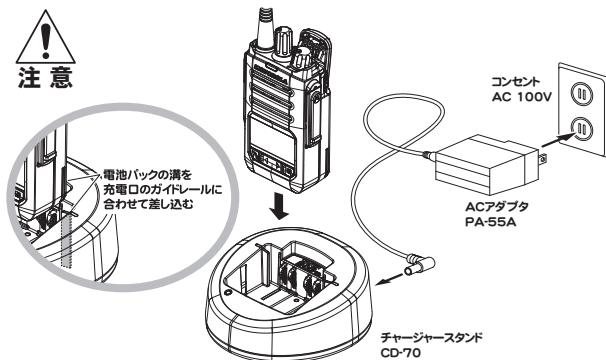
電池/パックを単体で充電するときは、電池/パックの電極が側面に露出しますので、金属片などが触れてショートすることが無いよう十分にご注意ください。

3. トランシーバー（または電池/パック単体）が正しく差し込まれると LED インジケーターが赤色に点灯し充電を開始します。
4. 90% 充電になると LED インジケーターが緑色に点滅し、充電が完了すると緑色に点灯します（充電時間は電池/パックにより異なります）。

充電完了後は速やかに電池/パックを CD-70 から取り外してください。そのまま長時間充電を続けると、電池/パックを劣化させる可能性があります。



注意



デジタル簡易無線局について

デジタル簡易無線の登録局は、下表のように分類されています。

種別	ARIB 種別コード	周波数	チャンネル数	使用範囲
登録局	3R	351MHz	30	陸上及び日本周辺海域
登録局 (上空利用)	3S		5	陸上及び日本周辺海域 並びにそれらの上空

補足

本機は種別コード「3R」の“登録局”として開発されたもので、スカイスポーツ等、上空でのご利用はできません。

各部の
名称と
機能

■ チャンネル構成とコールチャンネル (ARIB 種別コード：3R)

チャンネル構成

“- CH01 -” ～ “- CH30 -” の 30 チャンネルが利用可能です。

■ コールチャンネル

コールチャンネルは CH15 に設定されています。

補足

○コールチャンネルでは、ユーザーコードは自動的に“000”に設定され、秘話は自動的に解除されますので、ARIB 規格で定めている「呼出用チャンネル」として、ご利用いただけます。

○コールチャンネルは一時的な呼び出しのみに使用し、継続的な通話は他のチャンネルで行うようにしてください。

○コールチャンネルでは、ユーザーコードおよび、秘話の設定はできません。

■ 受信専用上空用チャンネルモニター

上空用チャンネル（1 ～ 5 チャンネル）をモニターすることができます。

補足

上空用チャンネルをモニターするには、販売店での設定が必要です。

各部の名称と機能

■ キャリアセンス機能

基準値以上の強さの電波を受信している場合は、混信を防止するために、送信を禁止する機能です。

送信禁止時はディスプレイに“Wait”が表示され、「ピピッ…」と警告音を発し送信することができなくなります。受信を示す LED インジケーターが消えてから再度送信を開始してください。

本機は、デジタル簡易トランシーバー登録局としてキャリアセンス機能を搭載しており、電波法および ARIB 規格により、以下の 2 つの方式から選択することができます。

方式 1：送信のたびに、キャリアセンスを行う方式。

方式 2：キャリアセンスを行って送信した場合、送信後 5 分間はキャリアセンスを省略する方式。但しこの 5 分間の中で、3 秒間の応答待ち時間中に応答がない場合には、キャリアセンスの省略はキャンセルされます。
(工場出荷時は方式 2 に設定されています。)

補足

- 本機は、工場出荷時には方式 2 に設定されています。方式 1 でご使用になる場合は、ご購入の販売店にご相談ください。
- “Wait” 表示が出た後に PTT スイッチをもう一度押した場合、受信電波がなくなり次第ピープ音でお知らせする CH 空き通知機能が搭載されています (p.72 参照)。
- 大規模なイベントではデジタル簡易無線の使用頻度が高く、チャンネルが大変混み合っている場合があります。本機には、こうした状況をできるかぎり緩和して、速やかに通信を行うことができる便利な機能が搭載されています。
  - ・ スキャン PTT による自動チャンネル選択機能 (p.79 参照)

通信について

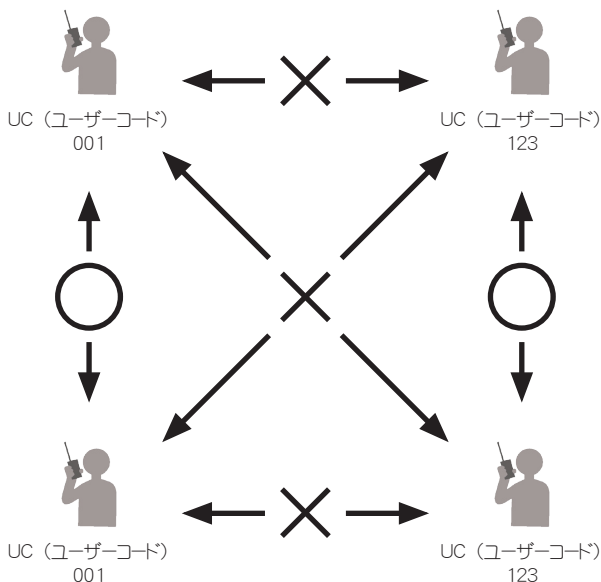
UC 通信と個別通信の 2 通りの通信方式があります。本機は工場出荷時に UC 通信に設定されています。個別通信を行う時はコールモード「C01 通信方式」を“個別通信”に設定してください。

■ UC 通信

全員が同じチャンネル番号にあわせていても、同じ UC（ユーザーコード）を設定している者同士だけが、通話することができる通信方式です。

本機は、あらかじめ UC（ユーザーコード）が“000”に設定されていますが、コールモードの「C02 UC」（p.54 参照）で、000～511 に変更することができます。

UC 通信の通信例

各部の
名称と
機能

各部の名称と機能

■ 個別通信

全員が同じチャンネル番号と UC（ユーザーコード）に合わせていても、特定の相手だけを呼び出したり（全員を一斉に呼び出すことも可能）、特定のグループに属する全ての局を呼び出して通話することができる通信方式です。

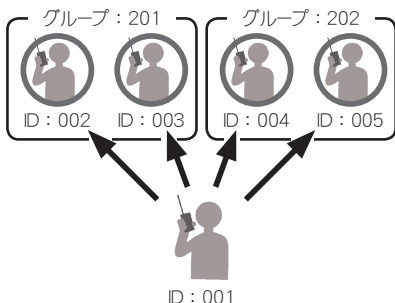
この通信方式を利用するには、各無線機に個別の ID 番号を設定し、さらに特定のグループを呼び出すにはグループ ID の設定が必要になります。個別 ID の設定方法は、コールモードの「C04 自局 ID」（p.55 参照）を、グループ ID の設定方法は、コールモードの「C05 グループ ID」（p.56 参照）を参照してください。

個別通信の通信例

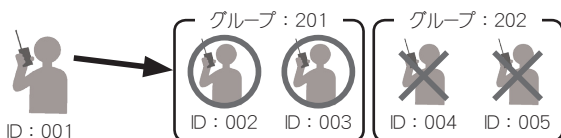
特定の相手だけを呼び出す



全員を一斉に呼び出す



特定のグループに属する全員を呼び出す



通信の基本操作

下記の通信を行う場合は、あらかじめ確認および設定を行ってください。

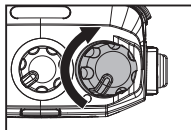
- ◎ UC 通信を行う
  - コールモード「C01 通信方式」(p.53 参照)を“UC 通信”に設定する。
  - コールモード「C02 UC」(p.54 参照)を交信する相手と同じ UC (ユーザーコード) に設定する。
- ◎ 個別通信を行う
  - コールモード「C01 通信方式」(p.53 参照)を“個別通信”に設定する。
  - コールモード「C02 UC」(p.54 参照)を交信する相手と同じ UC (ユーザーコード) に設定する。
  - コールモード「C04 自局 ID」(p.55 参照)を他の無線機と違う ID に設定する。
  - コールモード「C05 グループ ID」(p.56 参照)をグループと同じ番号に設定する。

1. 電源を入れる

電源スイッチを右にまわすと、電源が入ります。



ディスプレイに起動画面が約 1 秒間表示され「ピピ」とピープ音が鳴り、ディスプレイに現在のチャンネルが表示されます。



2. 音量を調節する

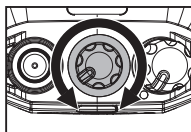
音量調節ツマミを 10 ~ 11 時の位置にあわせておき、その後は相手の音声 が最適な音量になるよう、音量調節ツマミで調節します。

3. ロータリースイッチをまわして、チャンネルをあわせます。

右へまわすとアップ方向に切り替わります。

左へまわすとダウン方向に切り替わります。

陸上波チャンネル



- CH01 - - - CH02 - ... - CALL - ... - CH29 - - - CH30 -
 上空 -5 - 上空 -4 - 上空 -3 - 上空 -2 - 上空 -1
 上空用チャンネル (モニターのみ: p.23 参照)



○ - CH01 - にあわせた時、「ポピッ」というピープ音が鳴りますので、トランシーバーを腰につけていた状態でも - CH01 - を確認することができます。

○ 上空用チャンネルをモニターするには、販売店で設定が必要です。

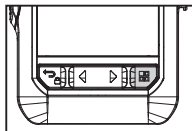
各部の名称と機能

4. 呼び出し方法を選ぶ（個別通信のみ）

UC 通信の場合は手順 6 へ進んでください。

 を長押しして、呼び出し方法を選びます。

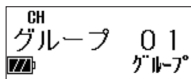
※  を押して“グループ”と“個別”を表示させたときは、登録された ID の一番若い番号が表示されます。



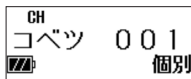
同じチャンネルにあわせている、全ての局を呼び出したいとき



特定のグループに属する、全ての局を一斉に呼び出したいとき

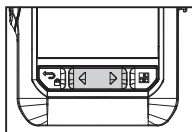


特定の相手局を呼び出したいとき



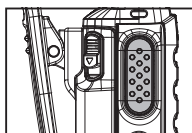
5. 呼び出し先を選ぶ（個別通信のみ）

特定の相手やグループを呼び出したい時は、左右選択キーを押して、“個別 ID” または “グループ ID” を選択します。



6. 送信（通話）する

PTT（通話）スイッチを押しながら、マイクに向かって話します。

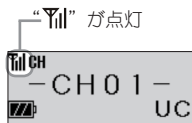


補足

○ 混信を防ぐため、他の無線局が話をしていないとき（LED インジケーターが緑色に点滅していないとき）に、送信するようにしてください。

○ マイクホンと口元の間隔は、2.5 センチ以上離して、普通の声で話します。

○ 送信中は、LED インジケーターが赤色または青色に点灯し（p.18 参照）、ディスプレイに“**YII**” が点灯します。送信出力が“Mid (2.5W)” に設定されている場合は“**YII**”、“Low (1W)” に設定されている場合は“**YI**” が点灯します。



○ 電波法および ARIB 規格により、連続送信（通話）時間が決められています。

- ・キャリアセンス方式 1：送信を開始して約 4 分 50 秒後にアラームが「ピーピー」と鳴り、5 分を経過する前に自動的に送信が止まります。
- ・キャリアセンス方式 2：キャリアセンスを省略して通話できる時間は最大 5 分です。通話を開始して約 4 分 45 秒後にアラームが「ピーピー」と鳴り、5 分を経過する前に自動的に送信が止まります。

自動的に送信を停止すると、その後 1 分間は送信禁止状態になります。アラームが鳴った際は、速やかに送信を中止してください。

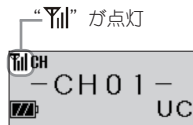
各部の名称と機能

7. 相手の音声を受信する

PTT（通話）スイッチを放すと、待ち受けまたは相手の話を聞く（受信）ことができます。

補足

○ 信号を受信すると、LED インジケーターが点滅し（p.18 参照）、電波の強さに応じて、ディスプレイの“アンテナアイコン”が点灯します（最大 4 本）。



○ 個別通信の場合、相手の話が終わると通話タイマー（初期値は 5 秒）がお互いに設定されます。応答は、通話タイマー設定時間内（応答待ち時間）に行ってください。

通話タイマーとは、相手が応答するまでの待ち時間で、タイマー動作中は LED インジケーターが水色に点灯します。

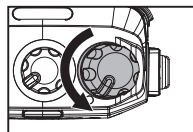
応答されなかったときは、待ち受け状態に戻ります。待ち受け状態は「C08 個別宛先」（p.58 参照）の設定によって変わります。

8. 電源を切る

電源スイッチを「カチッ」と音がするまで左にまわし切ると、電源が切れます。

補足

一週間以上使用しない場合は、電池パックが消耗しないように、トランシーバーの電源を切り、トランシーバーから電池パックを外してください。



呼び出しを受けたとき（個別通信のみ）

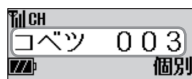
個別通信方式で呼び出しを受けると、ディスプレイ表示の点滅、電子音（着信ベル）、LED の点滅により、呼び出しがあったことを知らせ、同時に通話タイマー（初期値は 5 秒）が設定されます。

すぐに応答することができなかった場合、通話タイマー設定時間が経過すると“不在着信状態”となり、呼び出してきた相手局 ID の表示が点滅します。その状態で PTT（通話）スイッチを押すと、相手局を呼び返すことができます。不在着信状態をキャンセルする場合は、 を押してください。

個別通信で呼び出された方式（個別、グループ、一斉）による電子音（着信ベル）などの設定は“拡張機能”を参照してください（51 ページ）。また、LED の表示については“LED インジケータの動作概要”を参照してください（18 ページ）。

個別呼び出しを受けたとき

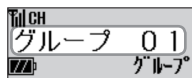
ディスプレイに、呼び出してきた相手局の ID が点滅表示されます。



グループ呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、呼び出されたグループの ID が表示されます。

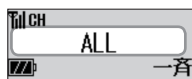
通話タイマー設定時間が経過すると元の画面に戻ります。



一斉呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、“ALL”が表示されます。

通話タイマー設定時間が経過すると元の画面に戻ります。



各部の名称と機能

個別通信設定と受信待ち受け画面について

混信を防止するため“UC（ユーザーコード）”を設定しています。

また、個別通信を行う場合は、全ての無線機に“IDリスト”を作成し、それぞれの無線機に自局のIDを記憶させる必要があります。

なお本機には、あらかじめ仮のIDリストが作成されていますが、お客様の運用形態に合わせて、再構成することをお勧めいたします（設定は販売店が行いますので、お買い上げの販売店にご相談ください）。

通信方式と設定	個別通信運用	UC 通信運用
必要な設定	UC と ID 設定	UC 設定

待ち受け画面では、UC 通信の場合チャンネルを表示し、個別通信の場合はあて先を表示します。

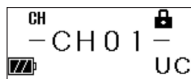
キーロック機能

誤って各キーを押したりロータリースイッチをまわしても、設定が変わらないようにする機能です。

キーロック機能を設定する：

 を長押しする

ディスプレイに“”が点灯し、キーロック機能が動作します。



補足

○キーロックが動作中に各キーを押すと、ピープ音が鳴ると同時に“-LOCK -”が表示され、ロック中であることを知らせます。

○キーロック対象の初期値は“KEY+ロータリー”に設定されています（p.66 参照）。

キーロック機能を解除する：

 を長押しする

キーロック機能が解除され、ディスプレイの“”表示が消えます。

プログラムキー

必要に応じ、プログラム 1 キー (●)、2 キー (○) に下記機能を割り当てる事が出来ます。

スキャン・コールチャンネル・セカンダリPTT・バックライト・音声案内・ワンタッチボリュウム・緊急・クイックアンサー・ローンワーカー・録音

プログラムキーの設定を変更したい場合、お買い上げの販売店にご相談ください。

スキャン機能

スキャン機能にはプログラムスキャン機能とデュアルシーブ機能があります。

プログラムスキャン機能は、スキャンしたい複数のチャンネル（スキャンチャンネル）をあらかじめ設定し、スキャンチャンネルと通話チャンネルを自動的に切り替えてモニターしながら待ち受けします。

デュアルシーブスキャン機能は、現在の通話チャンネルと事前に設定した一つのスキャンチャンネルを自動的に切り替えモニターしながら待ち受けします。

各部の
名称と
機能

■ プログラムスキャン機能を使用する

プログラムスキャンのスキャンチャンネル登録 (p.43 参照)。



スキャン機能を使用するためには、あらかじめプログラムキーに“スキャン”機能を設定する必要があります。お買い上げの販売店にご相談ください。

スキャンを開始する：

スキャン機能を設定したプログラムキーを押す

ディスプレイ上に“スキャン”と表示され、通話チャンネルと事前に登録したスキャンチャンネルをスキャンします。信号を受信するとスキャンは停止し“”を点滅します。

ユーザーコードが 000 及びユーザーコードが一致している場合にスキャンが停止します。

ユーザーコードが一致しない局が通話チャンネルまたはスキャンチャンネルで交信を続けている間は、LED インジケーターが緑色に点滅しますがスキャンは停止しません。

スキャンを再開する：

スキャン停止中にロータリースイッチを回す

P.80 “F25 スキャンRX” 設定参照

各部の名称と機能

スキャンを終了する：

スキャン中にスキャン機能を設定したプログラムキーを押す

■ デュアルレシーブ機能を使用する

スキャンタイプの切り替え (p.78 参照)。

セッモード “F23 スキャンタイプ” を “デュアルレシーブ” に設定します。

デュアルレシーブのスキャンチャンネル登録 (p.43 参照)。



注意 スキャン機能を使用するためには、あらかじめプログラムキーに “スキャン” 機能を設定する必要があります。お買い上げの販売店にご相談ください。

スキャンを開始する：

スキャン機能を設定したプログラムキーを押す

ディスプレイ上に “スキャン” と表示され、通話チャンネルと事前に登録したスキャンチャンネルを交互にスキャンします。信号を受信するとスキャンは停止し “” を点滅します。

ユーザーコードが 000 及びユーザーコードが一致している場合にスキャンが停止します。

ユーザーコードが一致しない局が通話チャンネルまたはスキャンチャンネルで交信を続けている間は、LED インジケーターが緑色に点滅しますがスキャンは停止しません。

スキャンを再開する：

スキャン停止中に、ロータリスイッチを回す

P.80 “F25 スキャンRX” 設定参照

スキャンを終了する：

スキャン中にスキャン機能を設定したプログラムキーを押す

コールチャンネルボタン

プログラムキーを押すと、コールチャンネル (15CH) に切り替わります。

もう一度ボタンを押すと、元のチャンネルに戻ります。

セカンダリPTT（スキャンチャンネルのPTT 操作）

デュアルスリープ中（p.34 参照）に  を押すと、登録したスキャンチャンネルで送信することができます。



○セカンダリPTT 機能を使用するためには、あらかじめプログラムキーに“セカンダリPTT” 機能を設定する必要があります。お買い上げの販売店にご相談ください。（p.33 参照）。

○セットモード“F24 スキャンPTT”を“通話 CH”に設定してください。

操作：

デュアルスリープ中に、 を長押しする

通話中押し続け、放すと待ち受けの状態に戻ります。



○スキャン RX が ON のときは、待ち受けから通話タイマー経過後にスキャンを再開します。

○デュアルスリープ中に  を押すと通話チャンネルで送信します。

○スキャンが停止し  が点滅中に  を押すと停止チャンネルで送信します。

バックライト

プログラムキーを押すと、ディスプレイのバックライトが 5 秒間点灯します。もう一度押すとバックライトは消灯します。



バックライト機能を使用するためには、あらかじめプログラムキーに“バックライト” 機能を設定する必要があります。お買い上げの販売店にご相談ください。（p.33 参照）。

操作：

バックライト機能を設定したプログラムキーを押す

音声案内（ボイスチャンネルアナウンス）

現在のチャンネル番号を音声案内で確認することができます。



あらかじめ音声案内機能が“プログラム 2 キー 短押し”（）に登録されています。（p.33 参照）。

操作：

音声案内機能を設定したプログラムキーを押す

チャンネル番号を音声で読み上げます。CH01 では「いち」とアナウンスします。

各部の名称と機能

ワンタッチボリューム（ワンタッチで音量を下げる）

プログラムキーを押すと、音量ツマミをまわさずにワンタッチで音量を一時的に下げることができます。もう一度キーを押すと解除されます。



注意 ワンタッチボリューム機能を使用するためには、あらかじめプログラムキーに“ワンタッチボリューム”機能を設定する必要があります。お買い上げの販売店にご相談ください。

操作：

ワンタッチボリューム機能を設定したプログラムキーを押す

ワンタッチで音量を一時的に下げることができます。

再度押すと、元の音量に戻ります。

緊急動作

不慮の事故などの緊急事態を、アラーム音と LED の表示で周囲に知らせたり、緊急信号を送出して、他の仲間に緊急を知らせることができます。

操作：

○を約 2 秒以上押す

67 ページに記載の“F06 緊急モード”で設定した動作をおこないます。



○あらかじめ緊急動作機能が“プログラム 2 キー 長押し”（○）に登録されています。

○緊急機能の動作を停止させるには、電源を切ってください。

■ 緊急信号を受信したとき

個別通信時に緊急信号を受信すると、ディスプレイに緊急信号を発信した局の ID を表示し、LED インジケータが白色で点滅します。

さらに、しばらく何も操作をおこなわないと、電子音が鳴り続けます。



○電子音は、いずれかのキーを押すと止まります。

○プログラムキーを押すと、緊急受信モードは解除されますが、再び緊急信号を受信すると、再度電子音が鳴り始めます。

緊急信号を受信したときに、PTT スイッチを押して送信すると、自動的に“一斉呼び出し”（同じチャンネルにあわせている、全ての局を呼び出す）に切り替わり、緊急信号を発信した相手局に対して、音声での問いかけや、応答をすることができます。

クイックアンサー

クイックアンサーは音声を発して応答できないようなシチュエーションのときに使用する機能です。例として「了解しました。後程応答します。」などを録音しておき、プログラムキーを短く押すとメッセージが送信されます。

クイックアンサー用の音声メッセージはあらかじめ録音しておく必要があります (p.42 参照)。

操作：

クイックアンサー機能を設定したプログラムキーを押す

補足

- あらかじめ“F14 クイックアンサー”をONに設定しておく必要があります (p.71 参照)。
- クイックアンサー機能を使用するためには、あらかじめプログラムキーに“クイックアンサー”機能を設定する必要があります。お買い上げの販売店にご相談ください。

ローンワーカー(自動的に緊急モードが起動する機能)

一定時間、送信 (PTT) 操作が行われなかった時に、あらかじめ“F06 緊急モード”で設定した緊急動作を自動的に起動することができます。

操作：

ローンワーカー機能を設定したプログラムキーを押す

補足

- ローンワーカー機能を使用するためには、あらかじめプログラムキーに“ローンワーカー”機能を設定する必要があります。お買い上げの販売店にご相談ください。
- ローンワーカー機能をプログラムキーで実行にした場合、一定時間 (約 120 分) PTT 操作が行われないと自動的に緊急動作予告ビープが 30 秒間なり始めます。その後、設定した緊急動作になります。
- 緊急動作予告ビープ中に PTT スイッチを 1 回押すと、緊急動作予告ビープが止まりローンワーカータイマーが“0”にリセットされますので、緊急動作は回避されます。
- ローンワーカー機能を“ON”でご利用の際は、120 分以内に少なくとも 1 回は PTT スイッチを押して、通話を行ってください。
- ローンワーカータイマー値を変更する場合はお買い上げの販売店にご相談ください。
- ローンワーカー機能が動作しているときは、ディスプレイに“”が点灯します。
- スキャン動作中のローンワーカー機能は、スキャンを開始したチャンネルで動作します。

各部の名称と機能

簡易リスト一覧

項 目	設定値（初期値太字）	機能	ページ
リピート再生	—	自動で録音されている相手局の音声を再生	39
録音メモ	—	録音された音声の再生 / 消去	41
クイックアンサー	—	音声メッセージを再生 / 消去	42
スキャン CH	CH01 ~ CH30/ALL CH	スキャンチャンネルの設定	43
RX イコライザー	<u>OFF</u> / 低域強調 / 高域強調	受信音の音質設定	44
TX イコライザー	<u>OFF</u> / 低域強調 / 高域強調	送信音の音質設定	44
ノイズキャンセル	OFF/ <u>ON</u>	ノイズキャンセル機能の設定	45
インテリ オーディオライト	<u>OFF</u> /ON	インテリジェントオーディオライト機能	45
VOX	<u>OFF</u> /ON	VOX 機能の設定	46
VOX 感度	レベル 00 ~ <u>08</u> ~ 15	VOX 感度の設定	46
個別 通信時 の追加 機能	アンサー バック	待ち受け画面に表示されている相手局と、交信できる状態かを確認する機能	47
	着信履歴	着信した信号の発信元を、新しい順に表示（最大 10 件）	48
	発信履歴	発信した信号の発信先を、新しい順に表示（最大 10 件）	48
	メッセージ 送信	あらかじめ登録されたメッセージ（最大 10 件）の送信機能	49
	メッセージ 確認	受信したメッセージの表示（最大 10 件）	50
自局情報	UC/ 個別 ID/ グループ ID	UC、個別 ID、グループ ID の表示	50
無線機情報	周波数	現在の CH の周波数の表示	50

各部の
名称と
機能

レポート再生

トランスシーバーの電源を入れると、自動的に受信した音声を録音する機能が動作します。通話内容を聞き逃した時などに、内容を確認することができます。

補足

- 最大 10 件まで録音されます。
1 件あたり、最大 60 秒まで録音されます。

1 件前	2 件前	3 件前	4 件前	5 件前	6 件前	7 件前	8 件前	9 件前	10 件前

10 件まで録音可能 (1 件あたり、最大 60 秒)

- 150 秒録音した場合、3 件分割されて録音されます。
新たに録音する場合は 4 件目から録音されます。

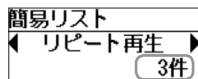
1 件 (60 秒)	2 件 (60 秒)	3 件 (30 秒)

150 秒録音した場合、3 件分割されて録音される

- 10 件を超えて録音される場合は、古い件数の順から既に録音された内容に上書きされていきます。
- 電源を切ると、録音された内容は消去されます。

各部の
名称と
機能

1.  短押し (簡易リスト)
2.    “レポート再生” 選択 
3.    再生音声の選択
4.  録音内容を再生
 再生中 “停止”



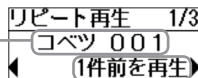
録音が無い場合は
“録音無し” と表示する

個別通信の表示例：宛先が表示される

個別 001 から応答録音の場合：コベツ 001

グループ 01 から応答録音の場合：グループ 01

ALL の場合：ALL



1 件前を再生とは、「1 件
目のレポートあり」を表す

 を押すと 1 件前を再生

各部の名称と機能

録音メモ機能

■ 録音

ワンタッチで相手の音声を録音することができます。リピート再生機能と違い、電源を切っても録音内容を維持するため、後で繰り返し内容を確認することができます。

補足

あらかじめ録音機能が“プログラム 1 キー 短押し”（）に登録されています。

録音のしかた：

録音機能を設定したプログラムキーを押す

“**REC**”アイコンが表示されると共に録音待機状態となり、信号を受信すると録音を開始します。

受信中にプログラムキーを押すと、直ちに録音を開始します。

再びプログラムキーを押すと、“**REC**”アイコンが消えると共に録音の待ち受けを停止します。

注意

- すでに5件の録音がされている場合はを押しても録音されません。
- 連続で受信したときには、録音件数が1件になる場合があります。

補足

- 録音可能な時間には制限があり、1件につき最大約60秒録音することができます。
- 件数は5件まで可能です。

1 件	2 件	3 件	4 件	5 件

5 件まで録音可能（合計約 $5 \times 60 = 300$ 秒以内）

1 件：50 秒	2 件：20 秒	3 件：45 秒	4 件：5 秒	5 件：無し

件数は5件まで

- 録音件数を超えた場合は、録音されませんので、不要となった録音メモは消去してください。
- 1件の録音時間が最大時間（60秒）を超過した場合は、録音が解除（“**REC**”アイコン消灯）されます。

■ 録音メモの再生 / 消去

録音した内容を再生 / 消去することができます。

1. 短押し (簡易リスト)
2. “録音メモ” 選択
3. 再生したい録音メモを選択 / 全消去を選択
4. 再生したい録音メモを選択した場合
5. “再生”/“消去” 選択
6. “再生” 再生中に押すと“停止”

簡易リスト	
◀	録音メモ 3件
▶	
録音メモ 1/3	
◀	*UC通信 ***
▶	
録音メモ 1/3	
◀	*UC通信 再生
▶	

手順 3. で全消去を選択した場合

録音メモ 全消去 実行	⇒	録音メモ 消去しますか? はい/いいえ 実行
◀ ▶ (Memo icon) “はい” / “いいえ” 選択 ⇒		

手順 5. で消去を選択した場合

録音メモ 1/3 *UC通信 消去	⇒	録音メモ 1/4 消去しますか? はい/いいえ 実行
◀ ▶ (Memo icon) “はい” / “いいえ” 選択 ⇒		

各部の
名称と
機能

各部の名称と機能

クイックアンサー機能

クイックアンサーは音声を発して応答できないようなシチュエーションのときに使用する機能です。例としてあらかじめ「了解しました。後程応答します。」などの音声を録音しておき、プログラムキーを押すと録音メッセージが送信されます。

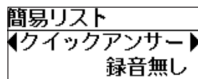
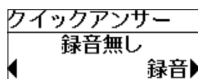
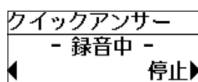
■ 音声メッセージの録音

録音時間は 20 秒で、録音件数は 1 件です。

自局の音声によるメッセージを録音 / 再生 / 消去を行うことができます。

1.  短押し (簡易リスト)
2.   () “クイックアンサー” 選択 

3.  短押し
ディスプレイに “- 録音中 -” と表示されると共に録音が始まるので、マイクに向かって音声を録音します。
4.  短押し
録音を終了します。



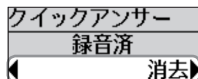
補足

何も録音されていない場合は“録音無し”が表示されます。

録音した内容を再生または消去したい場合

手順 3 の後、以下の操作を行ってください。

  () を押して “再生” または “消去” を選択します。



再生または消去を選択

操作：

クイックアンサー機能を設定したプログラムキーを押す

「- 応答中 -」の画面表示とともに、録音した音声メッセージが送信されます。送信が完了すると、画面表示が「- 応答終了 -」に切り替わり、クイックアンサー動作が終了します。

スキャンチャンネル登録

プログラムスキャンのスキャンチャンネル登録：

1. セットモード“F23 スキャンタイプ”が“プログラム”に設定されていることを確認する (p.78 参照)
2.  短押し (簡易リスト)
3.    “スキャン CH” 選択  
4.    スキャンに登録 / 解除したいチャンネルを選択  
5.    “ON” / “OFF” 選択  
6. 他のチャンネルを登録する場合は、手順 3 ～ 5 を繰り返し設定する

簡易リスト	
◀	スキャンCH ×××
スキャンCH	
◀	-CH01- ON

CH01・・・CH30、ALL CH	
スキャンしたいチャンネルを選択し“ON”に設定、“OFF”に設定すると無効になります。“ALL CH”は全チャンネルを一括で ON/OFF が可能です。	

7.    チャンネル表示に戻る (スキャンチャンネルには“”が点灯)

デュアルレシーブのスキャンチャンネル登録：

1. セットモード“F23 スキャンタイプ”が“デュアルレシーブ”に設定されていることを確認する (p.78 参照)

簡易リスト	
◀	スキャンCH -CH01-

2.  短押し (簡易リスト)
3.    “スキャン CH” 選択  
4.    スキャンしたいチャンネルを選択  

CH01・・・CH30	
スキャンしたいチャンネルを選択します。	

5.    チャンネル表示に戻る (スキャンチャンネルには“”が点灯)

各部の名称と機能

イコライザー機能

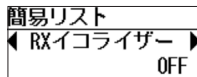
■ RX イコライザー

受信音を好みの音質に変更することができます。

1.  短押し (簡易リスト)
2.   () “RX イコライザー” 選択 

3.   () 希望の音質に選択  

OFF / 低域強調 / 高域強調
4.  チャンネル表示に戻る



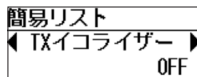
■ TX イコライザー

送信音を好みの音質に変更することができます。

1.  短押し (簡易リスト)
2.   () “TX イコライザー” 選択 

3.   () 希望の音質に選択  

OFF / 低域強調 / 高域強調
4.  チャンネル表示に戻る



ノイズキャンセル機能

周囲の騒音を抑えて、明瞭な音声を送信する「ノイズキャンセル機能」を設定します。本機能は内部マイク使用時のみ有効です。

1.  短押し（簡易リスト）
2.   () “ノイズキャンセル” 選択  
3.   () “ON” / “OFF” 選択  
4.  チャンネル表示に戻る

簡易リスト
◀ノイズキャンセル▶ ON

インテリジェントオーディオライト機能

突然騒音が激しくなった時に受信音の音量をコントロールし、聴きやすい音量に自動調整します。本機能はイヤホン使用時のみ有効です。

1.  短押し（簡易リスト）
2.   () “インテリオーディオライト” 選択  
3.   () “ON” / “OFF” 選択  
4.  チャンネル表示に戻る

簡易リスト
◀インテリオーディオライト▶ OFF

各部の名称と機能

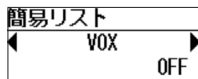
VOX 機能

アクセサリーの外部マイクロホンやタイピンマイクを接続して使用する機能です。PTT スイッチを押さなくても、音声により送信 / 待ち受けを自動的に切り替えることができます。話すとき送信、話をやめると待ち受けの状態に戻ります。

■ VOX 機能を使用する

VOX 機能を使用するときは ON に設定します。

1. 短押し (簡易リスト)
2. “VOX” 選択
3. “ON” 選択
4. チャンネル表示に戻る
5. ディスプレイに “ ” アイコンが点灯する
6. アクセサリーのマイクに向かって話をすると同時に送信を開始する
7. 話が終わると自動的に待ち受けに戻る



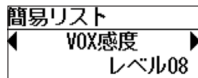
■ VOX の感度調整

送信状態になるときの感度を調整します。必要に応じて調整してください。

注意

周囲の雑音が大きく、話をしていないのに送信状態になる場合は、VOX 感度を下げて (数値を小さくする) 大きめの音声で話をしてください。

1. 短押し (簡易リスト)
2. “VOX 感度” 選択
3. 希望の VOX 感度を選択



レベル 00 . . . 15 (初期値 : レベル 08)

調整中、音声入力レベルに応じて LED インジケーターが黄色に点灯します。

4. チャンネル表示に戻る

個別通信時に便利な機能

個別通信機能に設定すると、簡易リストに 5 つの項目が追加されます。

- ◎ アンサーバック.....待ち受け画面に表示されている局と交信可能か確認する
- ◎ 着信履歴.....着信した履歴を確認する
- ◎ 発信履歴.....発信した履歴を確認する
- ◎ メッセージ送信.....あらかじめ登録してあるメッセージを送信する
- ◎ メッセージ確認.....受信したメッセージを確認する

■ アンサーバック

特定の相手局と交信できる状態かを確認することができます。

アンサーバック機能の準備：

セツトモード“F12 アンサーバック”を“ON”に設定してください（p.70 参照）。

アンサーバックを使用する：

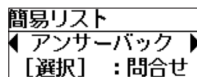
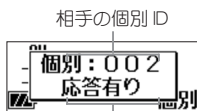
1. p.28、29 の“通信の基本操作”を参考に、手順 4、5 で確認したい相手局の個別 ID を設定する

2.  短押し（簡易リスト）

3.    “アンサーバック”選択 
相手に「問い合わせ」の信号を送出し、その後結果を表示する

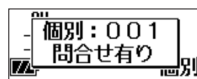
4.  個別通信画面に戻る

応答有り	相手局と交信可能な状態です。
応答無し	「相手局の電源が入っていない」「距離が離れすぎている」などの原因で、相手局と交信できない状態です。



問合せ  応答中 
応答有り（応答無し）の
通信状態が表示される

問い合わせを受けると、
“問合せ有り”と相手局
に表示される



各部の名称と機能

■ 着信履歴

着信した信号の発信元を、新しい順に最大 10 件まで履歴として残すことができます。

1. 短押し (簡易リスト)
2. () “着信履歴” 選択
3. () 着信履歴を選択
4. () “確定”/“削除”を選択

確定	表示中の相手局と通話するため、表示中のIDを表示し、個別通信画面に移行します。 で、着信履歴のIDに応答します。
削除	表示している着信履歴を削除します。 3. () で“履歴消去”を選択すると、全ての履歴を消去できます。

簡易リスト	着信履歴 10件
着信履歴	1/10 コベツ 002 ***
着信履歴	6/10 コベツ 004 確定

5. 個別通信画面に戻る
(削除の場合、簡易リスト画面に戻る)

■ 発信履歴

発信した信号の発信先を、新しい順に最大 10 件まで履歴として残すことができます。

1. 短押し (簡易リスト)
2. () “発信履歴” 選択
3. () 発信履歴を選択
4. () “確定”/“削除”を選択

確定	表示中の相手局と通話するため、表示中のIDを表示し、個別通信画面に移行します。 で、発信先履歴のIDに応答します。
削除	表示している発信履歴を削除します。 3. () で“履歴消去”を選択すると、全ての履歴を消去できます。

簡易リスト	発信履歴 10件
発信履歴	1/10 コベツ 003 ***
発信履歴	4/10 グループ 01 確定

5. 個別通信画面に戻る
(削除の場合、簡易リスト画面に戻る)

■ メッセージ送信

メッセージを送信する：

あらかじめ登録されているメッセージ（最大 10 件）を送信することができます。受信中等でメッセージ送信ができない状態では、一旦メッセージを保存して待ち受け状態になったときに自動でメッセージを送信します。

- 宛先を指定する（p.28, 29 参照）

-  短押し（簡易リスト）

-    “メッセージ送信” 選択 

-    メッセージを選択 

番号	メッセージ一覧
1	至急本部に連絡してください。
2	配達完了しました。



メッセージを変更や追加したい場合、お買い上げの販売店にご相談ください。

-  メッセージを送信

相手局にメッセージ送信が完了すると、宛先と“応答有り”が表示されます。特定の相手だけを呼び出す個別呼び出しでは、電波が届かない、電源が切れている等で相手にメッセージが届かない場合は“応答無し”を表示します。

-  個別通信画面に戻る

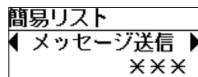
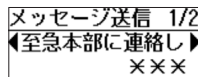
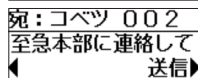
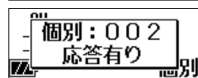
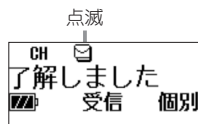


メッセージ設定は、送信側・受信側の双方で同じ設定にする必要があります。お買い上げの販売店にご相談ください。

メッセージを受信する：

メッセージを受信すると、ディスプレイに送り側の個別 ID を表示し、次に“”アイコンが点滅して、メッセージを表示します。

メッセージを確認後、 でメッセージを受信する前の状態に戻ります。



各部の名称と機能

■ メッセージ確認

受信したメッセージを、新しい順に最大 10 件まで表示することができます。

1.  短押し (簡易リスト)
2.    “メッセージ確認” 選択  
3.    メッセージを選択
4. (メッセージを削除する場合は)   簡易リスト画面に戻る

簡易リスト
◀ メッセージ確認 ▶
10件

自局情報

無線機に設定してある UC (ユーザーコード)、個別 ID、グループ ID を表示させることができます。

1.  短押し (簡易リスト)
2.    “自局情報” 選択  
設定されている内容を表示します。
3.  簡易リスト画面に戻る

簡易リスト
◀ 自局情報 ▶
***

自局情報
UC=123 個別ID=001
グループ=201

各部の
名称と
機能

無線機情報

現在設定してあるチャンネルの周波数を表示させることができます。

1.  短押し (簡易リスト)
2.    “無線機情報” 選択  
設定されている周波数を表示します。
3.  簡易リスト画面に戻る

簡易リスト
無線機情報
***

無線機情報
周波数=
351.200000MHz

操作のしかた（拡張機能）

コールモード一覧

項目	設定値（初期値太字）	機能	ページ
C01 通信方式	<u>UC 通信</u> / 個別通信	通信方式の選択	53
C02 UC	<u>000</u> ~ 511	全チャンネル共通で使用する UC の設定	54
C03 UC ベル	<u>0</u> /1/2/3 回	同一 UC 呼び出しビープ音の回数設定	55
C04 自局 ID	<u>001</u> ~ 200	自局 ID の設定	55
C05 グループ ID	<u>201</u> ~ 230	グループ ID の設定	56
C06 個別ベル	0/ <u>1</u> /2/3/4/5 回	個別呼び出し着信時のビープ音の回数設定	57
C07 グループベル	0/ <u>1</u> /2/3 回	グループ / 一斉呼び出し着信時のビープ音の回数設定	57
C08 個別宛先	<u>可変</u> / 固定	個別通信時の呼び出し先表示の設定	59
C09 固定宛先	<u>000</u> ~ 230	個別通信の待ち受け画面に表示させる相手局の ID 設定	59
C10 緊急個別 ID	***	緊急を知らせたい相手局の ID 設定	59
C11 通話タイマー	<u>5</u> /10/15/30/60 (秒) / 連続	個別通信時の通話タイマーの設定	60
C12 秘話 ID	<u>OFF</u> /\$01 ~ \$20	プリセット秘話コードの選択。 あらかじめ、最大 20 種類の秘話コードを秘話 ID としてプリセット可能。	61

操作のしかた
(拡張機能)

拡張機能（コールモード）の基本的な操作方法を次ページに記します。

補足

各項目の具体的な操作方法は、53 ページ以降を参照してください。

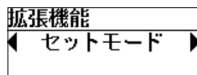
注意

拡張機能にはセットモード / コールモード以外にサービスモードがあります。このサービスモードは、サービスマン専用のモードです。故意に設定すると無線機が使用できなくなることがあります。

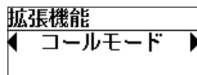
操作のしかた（拡張機能）

コールモードの設定

1. 一度電源を切り、 を押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら  を放す

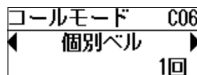
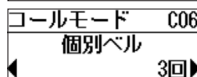


2.   で“コールモード”を選択する
 でも選択できます。



3.  を押して確定する

- パスワードの入力画面が表示された場合、コールモードの設定操作が禁止されていますので、お買い上げいただきました販売店にご相談ください。
- パスワードがわかっている場合は、下記の方法でパスワードを入力してください。

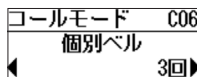


1.  で数字を選択します。
2.   で桁を移動させ、ロータリースイッチまたはプログラムキーで数字を選択します。
3. 入力が終わったら  を押して決定します。
4. 正しいパスワードが入力されると、コールモードの画面が表示されます。

4.   で希望の項目を選択する

 でも選択できます。

例) 右図のディスプレイ表示は“C06 個別ベル”の設定で説明します。



5.  を押して確定する

6.   で希望の設定値を選択する

 でも選択できます。

C02 UC の設定を行うときは、数字の桁移動、アップ、ダウン可能

- ・   桁移動
- ・  (アップ)、 (ダウン) が可能

7.  を押して確定する

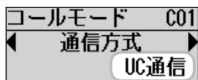
次の項目を選択する場合は、手順 4 ～手順 7 を繰り返し操作します。

8. 電源を切る

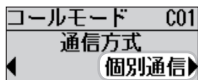
C01 通信方式

UC 通信と個別通信を切り換えることができます。

1. 52 ページの 1. ～ 3. の操作をおこない、コールモードにする
2.    “通信方式” 選択
3.  を押して確定する
4.    希望の通信方式を選択
 “UC 通信”：UC 通信方式で運用するとき。
 “個別通信”：個別通信方式で運用するとき。
5.  を押して確定する
 その後電源を切ると設定は終了です。



現在の通信方式



通信方式

操作のしかた（拡張機能）

C02 UC

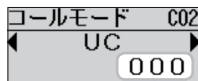
UC（ユーザーコード）を変更することができます。

1. 52 ページの 1. ～ 3. の操作をおこない、コールモードにする

2. ◀ ▶ (M) “UC” 選択

補足

ユーザーコードの代わりに“CH”が表示される場合は、すでにチャンネルごとにユーザーコードが設定されており、変更することができません。



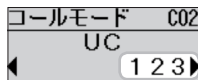
現在のユーザーコード

3. [ ] を押す

ユーザーコードの百の桁で、カーソルが点滅します。

4. [ ] で数字を選択

設定できるユーザーコードは“000”～“511”です（512以上の数字にあわせることはできませんが、設定することはできません）。



ユーザーコード

補足

ユーザーコードの“000”は、特別なユーザーコードとして扱われ、受信時は、ユーザーコードが異なる信号も受信できますが、送信時は“000”を設定している相手としか、通信することができません。

5. ▶ を押す

カーソルが右の桁に移動します。

◀ を押すと、カーソルが左の桁に移動します。

6. 4. と 5. の操作を繰り返して、3 桁のユーザーコードを設定する

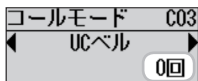
7. [ ] を押す

その後電源を切ると変更は終了です。

C03 UC ベル

同一 UC 呼び出しピープ音の回数を変更することができます。

1. 52 ページの 1. ～ 3. の操作をおこない、コールモードにする

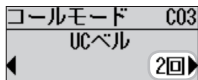


現在の設定回数

2. “UC ベル” 選択

3. を押す

4. 希望の回数を選択
設定できる回数は“0”～“5”です。



設定回数

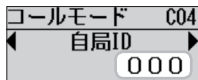
5. を押す

その後電源を切ると変更は終了です。

C04 自局 ID

個別通信で使用する自局の ID を変更することができます。

1. 52 ページの 1. ～ 3. の操作をおこない、コールモードにする

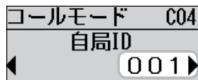


現在の自局 ID

2. “自局 ID” 選択

3. を押す

4. 希望の ID を選択



自局 ID

補足

○ あらかじめ登録してある ID しか、選択することはできません。

○ 登録されている ID 以外をご希望の場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

5. を押す

その後電源を切ると変更は終了です。

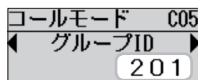
操作のしかた
(拡張機能)

操作のしかた（拡張機能）

C05 グループ ID

個別通信で使用するグループ ID を変更することができます。

1. 52 ページの 1. ～ 3. の操作をおこない、コールモードにする

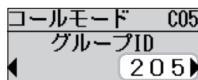


現在のグループ ID

2. ◀ ▶ (M) “グループ ID” 選択



現在のグループ ID に “ALL” が表示されている場合は、販売店により複数のグループ ID が登録されています。変更が必要な場合はお買い上げの販売店にご相談ください。



グループ ID

3. [設定] を押す

4. ◀ ▶ (M) 希望の ID を選択



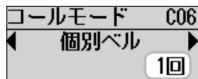
○ あらかじめ登録してある ID しか、選択することはできません。
○ 登録されている ID 以外をご希望の場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

5. [設定] を押す
その後電源を切ると変更は終了です。

C06 個別ベル

個別通信で個別呼び出しを受けた時に鳴る電子音の回数を、変更することができます。

1. 52ページの1.～3.の操作をおこない、コールモードにする

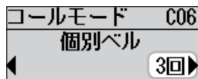


現在の電子音が鳴る回数

2. “個別ベル” 選択

3. を押す

4. 希望の回数を選択
設定できる回数は“0”～“5”です。



電子音が鳴る回数

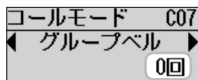
5. を押す

その後電源を切ると設定は終了です。

C07 グループベル

個別通信でグループ / 一斉呼び出しを受けた時に鳴る電子音の回数を、変更することができます。

1. 52ページの1.～3.の操作をおこない、コールモードにする

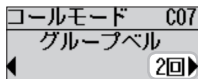


現在の電子音が鳴る回数

2. “グループベル” 選択

3. を押す

4. 希望の回数を選択
設定できる回数は“0”～“3”です。



電子音が鳴る回数

5. を押す

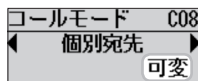
その後電源を切ると設定は終了です。

操作のしかた（拡張機能）

C08 個別宛先

個別通信で応答待ち時間（通話タイマー）が経過して、待機状態に戻る際の、呼び出し先表示の条件を設定することができます。

1. 52 ページの 1. ～ 3. の操作をおこない、コールモードにする



現在の設定

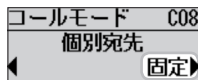
2. “個別宛先” 選択

3. を押す

4. 希望の表示方法を選択

“可変”：直前の通話で設定した呼び出し先の ID を表示します。

“固定”：あらかじめ設定している（C09 固定宛先で設定）呼び出し先の ID 表示に変わります。



設定

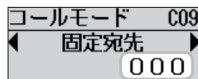
5. を押す

その後電源を切ると設定は終了です。

C09 固定宛先

個別通信の待ち受け画面に表示させる、相手局の ID を設定します。

- 52 ページの 1. ～ 3. の操作をおこない、コールモードにする

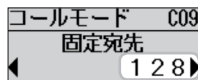


現在の固定宛先 ID

- “固定宛先” 選択

- を押す

- 希望の数字を選択
設定できる ID は “000” ～ “230” です。



固定宛先 ID

補足

- あらかじめ登録してある ID しか、選択することはできません。
- 登録されている ID 以外をご希望の場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

- を押す

その後電源を切ると設定は終了です。

C10 緊急個別 ID

出荷時の設定は、同一ユーザーの全員に緊急を知らせる“緊急一斉”に設定されていますので、本設定を行うことはできません。

緊急を知らせたい相手局の ID を変更できる“緊急個別”方式への変更は、お買い上げの販売店にご相談ください。

◎ 緊急一斉

同じユーザーの全ての局に対し、一斉に緊急を知らせることができます。

◎ 緊急個別

特定の相手局にだけ、緊急を知らせることができます。

操作のしかた（拡張機能）

C11 通話タイマー

応答待ち時間（通話タイマー）を設定することができます。通話タイマーとは、相手が応答するまでの待ち時間で、呼び出した側または呼び出しを受けた側両方でタイマーが動作します。タイマー動作中はLEDインジケーターが水色に点灯します。

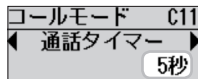
1. 52 ページの 1. ～ 3. の操作をおこない、コールモードにする

2.    “通話タイマー” 選択

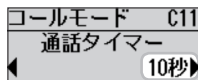
3.  を押す

4.    希望の応答待ち時間を選択
設定できる時間は“5 秒”、“10 秒”、“15 秒”、“30 秒”、“60 秒”、“連続”です。

5.  を押す
その後電源を切ると設定は終了です。



現在の設定時間



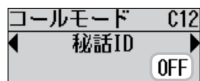
設定時間

C12 秘話 ID

秘話機能の動作を、ON/OFF することができます。

秘話機能を使用する場合は、あらかじめ秘話 ID を設定しておく必要があります。32,767 通りの秘話コードから 20 個を秘話 ID として販売店で設定することができますので、秘話をご希望のお客様は、お買い上げの販売店にご相談ください。

1. 52 ページの 1. ～ 3. の操作をおこない、コールモードにする

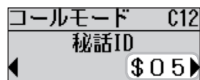


現在の設定

2. “秘話 ID” 選択

3. を押す

4. 秘話機能の OFF または秘話 ID を選択



設定

“\$01 ～ \$20”：設定した秘話 ID で秘話機能が動作します。

“OFF”：秘話機能がオフになります。

5. を押す

その後電源を切ると設定は終了です。



- 秘話機能が動作しているときは、ディスプレイに“秘”が点灯します。
- 交信したい相手の無線機にも、同じ秘話 ID が設定されていないと、交信することはできません。
- お互いの秘話 ID が異なる場合は、相手の音声を電氣的に秘話処理した電子音が聞こえるだけで、通話内容を正しく聞き取ることができません。
- 秘話信号を受信すると、LED インジケーターが青色で点滅します。
- 秘話機能が動作しているときに送信すると、LED インジケーターが青色で点灯します。
- サービスモードにて 20 種の秘話 ID 以外の秘話コードを設定した際は、“***”と表示します。
- チャンネルごとに秘話 ID が設定されている場合、設定を変更することはできません。

操作のしかた（拡張機能）

セットモード一覧

項 目	設定値（初期値太字）	機能	ページ
F01 ビープレベル	レベル 00 ～ 08 ～ 15	操作音（ビープ音）の音量設定	65
F02 外部マイク	-18/-12/-6/-3/ 0 / +3/+6/+10(dB)	外部マイクの感度設定	65
F03 内部マイク	-18/-12/-6/-3/ 0 / +3/+6/+10(dB)	本体内部マイクの感度設定	65
F04 ローター	CH /ID	ロータリースwitchの動作設定	66
F05 キーロック	KEY +ロータリー /PTT/ KEY/ ローター / 全て	ロック範囲の設定	66
F06 緊急モード	サイレント+HD 送信 / ID 送信 / アラーム /OFF/ アラーム +ID 送信	緊急モードの動作設定	67
F07 TXビープ	OFF /ON	送信開始時のビープ音設定	68
F08 RXビープ	OFF /ON	相手局の送信終了音の設定	68
F09 送信出力	High /Mid/Low/ 受信専用	送信出力の設定	69
F10 弱電界アラーム	OFF /ON	受信信号が極端に弱い場合に鳴るアラームの設定	69
F11 不在着信ベル	OFF /5 秒毎×2/ 2 秒毎 / 1 分毎 / 連続	個別着信時に応答しなかった場合に鳴るベルの設定	70
F12 アンサーバック	OFF /ON	相手局に電波が届いているかを確認する機能の設定	70
F13 電池アラーム	OFF/ ON	電池残量アイコン点滅と同時に鳴る警告音の設定	71
F14 クイックアンサー	OFF /ON	音声メッセージ送信機能の設定	71
F15 ワンタッチボリューム	ミュート /-30 %/-60 %	ワンタッチボリューム設定キー操作時の音量減衰量の設定	72
F16 CH 空き通知	OFF /ON	チャンネル空き通知の設定	72

操作のしかた（拡張機能）

項 目	設定値（初期値太字）	機能	ページ
F17 セミVOX オペレーション	<u>OFF</u> /ON	PTT 短押しで送信開始、音声入力が無くなると送信終了する機能の設定	73
F18 VOX TX 保持時間	<u>0</u> /0.2/0.5/1.0 秒	VOX 送信状態から受信状態に戻るまでの遅延時間設定	73
F19 TX AGC	<u>OFF</u> /ON	適切なマイク感度に自動調整する機能の設定	74
F20 ACC 電源	<u>OFF</u> /ON	外部アクセサリへの電源供給設定	74
F21 外部アクセサリタイプ	<u>OFF</u> /イヤホン / スピーカマイク	イヤホン / スピーカマイク の特性補正	75
F22 PTT ホールド*	<u>OFF</u> /ON	PTT ホールド*動作の設定	77
F23 スキャンタイプ	<u>プログラム</u> / デュアルレシーブ	スキャン方式の設定	78
F24 スキャンPTT	<u>通話 CH</u> / 最終通話 CH/AUTO	スキャン機能動作中の送信チャンネル設定	79
F25 スキャンRX	OFF/ <u>ON</u>	スキャン機能の着信後のスキャン再開設定	80
F26 スーパーセーブ	<u>OFF</u> /ON	電池/パックの持ち時間セーブ機能の設定	81
F27 自動電源 OFF	<u>OFF</u> /ON	電源切り忘れ防止機能の設定	82

操作のしかた
(拡張機能)

セットモードの基本的な操作方法を次ページに記します。

補足

各項目の具体的な操作方法は、65 ページ以降を参照してください。

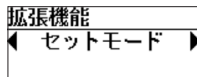
注意

拡張機能にはセットモード以外にサービスモードがあります。このサービスモードは、サービスマン専用のモードです。故意に設定すると無線機が使用できなくなることがあります。

操作のしかた（拡張機能）

セットモードの設定

1. 一度電源を切り、 を押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら  を放す



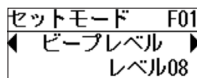
2.   で "セットモード" を選択する
3.  を押して確定する

補足

○ パスワードの入力画面が表示された場合、セットモードの設定操作が禁止されていますので、お買い上げいただきました販売店にご相談ください。

○ パスワードがわかっている場合は、下記の方法でパスワードを入力してください。

1.  で数字を選択します。
2.   で桁を移動させ、ロータリースイッチまたはプログラムキーで数字を選択します。
3. 入力が終わったら  を押して決定します。
4. 正しいパスワードが入力されると、セットモードの画面が表示されます。



4.   で希望の項目を選択する
 でも選択できます。
5.  を押して確定する
6.   で希望の設定値を選択する
 でも選択できます。
7.  を押して確定する

次の項目を選択する場合は、手順 4 ～ 手順 7 を繰り返し操作します。

8. 電源を切る

F01 ビープレベル

音量調節ツマミの音量と連動していますが、ビープ音の音量のみ調整することができます。レベル 00 にするとビープ音は鳴らなくなり、レベル 15 にすると音量よりもビープ音が大きくなります。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. “セットモード” 選択
3. “F01 ビープレベル” 選択
4. 希望のビープレベルを選択

セットモード	F01
ビープレベル	
レベル08	

レベル 00 ～ 15（初期値：08）

5. 電源を切り、再度電源を入れる

F02 外部マイク、F03 内部マイク

■ 外部マイクの感度設定（F02 外部マイク）

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. “セットモード” 選択
3. “F02 外部マイク” 選択
4. 希望のマイク感度を選択

セットモード	F02
外部マイク	
0dB	

-18/-12/-6/-3/0/+3/+6/+10（初期値：0）dB

5. 電源を切り、再度電源を入れる

■ 内部マイクの感度設定（F03 内部マイク）

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. “セットモード” 選択
3. “F03 内部マイク” 選択
4. 希望のマイク感度を選択

セットモード	F03
内部マイク	
0dB	

-18/-12/-6/-3/0/+3/+6/+10（初期値：0）dB

5. 電源を切り、再度電源を入れる

操作のしかた
（拡張機能）

操作のしかた（拡張機能）

F04 ローターリー

ロータリースイッチを操作した際に切り替える項目を設定します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. ( ) “セットモード” 選択
3. ( ) “F04 ローターリー” 選択
4. ( ) 希望の動作を選択

セットモード	F04
ロータリー	
CH	

CH（初期値）	チャンネルを切り替えます。
ID	呼出先 ID を切り替えます。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

F05 キーロック

無線機本体にてキーロック操作した際の、ロック対象を設定します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. ( ) “セットモード” 選択
3. ( ) “F05 キーロック” 選択
4. ( ) 希望のロックに選択

セットモード	F05
キーロック	
KEY+ロータリー	

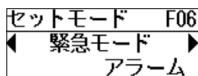
KEY+ロータリー （初期値）	、（短押し）、、、、、 をロックします。
PTT	をロックします。
KEY	（短押し）、、、、、 をロックします。
ロータリー	をロックします。
全て	、（短押し）、、、、、、 をロックします。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

F06 緊急モード

緊急、及びローンワーカー動作時の緊急動作を設定します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “セットモード” 選択
3. () “F06 緊急モード” 選択
4. () 希望の動作を選択



機能	ディスプレイ表示	LED 点滅	アラーム	ID 送信	PTT 操作
サイレント +ID 送信 (初期値) ※ 1	×	×	×	○	○
ID 送信 ※ 1	○	○	×	○	○
アラーム	○	○	○	×	×
アラーム +ID 送信	○	○	○	○ ※ 2	○ ※ 2
OFF	緊急アラーム機能は動作しません。				

5. 電源を切り、再度電源を入れる



※ 1 : UC 通信時は動作しません。

※ 2 : UC 通信時は ID 送信、PTT 操作は動作しません。

操作のしかた（拡張機能）

F07 TX ビープ、F08 RX ビープ

■ 送信開始時にビープが鳴る（F07 TX ビープ）

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）

セットモード	F07
TXビープ	
OFF	

2. “セットモード” 選択

3. “F07 TX ビープ” 選択

4. 希望の動作を選択

OFF（初期値）	機能は動作しません。
ON	送信を開始するとビープ音が鳴ります。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

■ 通話が終了するとビープが鳴る（F08 RX ビープ）

受信中の通話が終了したことを知らせるビープ音の動作を設定します。個別通信時または、“000”以外の同じユーザーコードに設定してある相手局の信号を受信した時のみ動作します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）

セットモード	F08
RXビープ	
OFF	

2. “セットモード” 選択

3. “F08 RX ビープ” 選択

4. 希望の動作を選択

OFF（初期値）	機能は動作しません。
ON	通話が終了するとビープ音が鳴ります。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

F09 送信出力

送信出力（発射する電波の強さ）を“High”（5W）、“Mid”（2.5W）、“Low”（1W）から選択することができます。距離の近い相手と交信するときに、送信出力を“Mid”または“Low”に切り替えると電池パックの消耗を減らすことができます。また、本機を受信専用機として使用する場合は“受信専用”に設定してください。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. “セットモード” 選択
3. “F09 送信出力” 選択
4. 希望の送信出力を選択

セットモード	F09
送信出力	
High	

CH 毎	送信時、あらかじめ CH 毎に設定された送信出力で送信します。
High（初期値）	送信出力 5W、送信時ディスプレイに が点灯します。
Mid	送信出力 2.5W、送信時ディスプレイに が点灯します。
Low	送信出力 1W、送信時ディスプレイに が点灯します。
受信専用	PTT スイッチを押しても、送信しなくなります。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

F10 弱電界アラーム

受信している信号が、極端に弱くなったことを知らせるアラーム音の動作を設定します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. “セットモード” 選択
3. “F10 弱電界アラーム” 選択
4. 希望の動作を選択

セットモード	F10
弱電界アラーム	
OFF	

OFF（初期値）	機能は動作しません。
ON	受信信号が極端に弱くなると、アラーム音が鳴ります。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

操作のしかた（拡張機能）

F11 不在着信ベル

相手からの個別呼び出しを受けた後に応答しなかった場合、設定した条件でベル（電子音）を鳴らすことができます。

なお、“スキャン動作中”および“グループ呼び出し”や“一斉呼び出し”での着信では、ベルは鳴りません。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. ( ) “セットモード” 選択
3. ( ) “F11 不在着信ベル” 選択
4. ( ) 希望の動作を選択

セットモード	F11
不在着信ベル	OFF

OFF（初期値）	機能は動作しません。
5 秒毎×2	5 秒毎に 2 回鳴らします。
2 秒毎	2 秒毎に連続して鳴らします。
1 分毎	1 分毎に連続して鳴らします。
連続	連続音を鳴らします。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

F12 アンサーバック

特定の相手局と交信できる状態か確認するアンサーバック機能を設定します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. ( ) “セットモード” 選択
3. ( ) “F12 アンサーバック” 選択
4. ( ) “ON” に選択
5. 電源を切り、再度電源を入れる

セットモード	F12
アンサーバック	OFF

F13 電池アラーム

ピープ音により、バッテリーの残量が少なくなったことを知らせる機能の動作を設定します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. ( ) “セットモード” 選択
3. ( ) “F13 電池アラーム” 選択
4. ( ) 希望の動作を選択

セットモード F13
電池アラーム
ON

OFF	機能は動作しません。
ON（初期値）	バッテリーの残量が少なくなると、2 分間隔でアラーム音が鳴ります。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

補足 アラームが鳴った際には、速やかに電池パックを交換または充電を行ってください。

F14 クイックアンサー

あらかじめ機能を割り付けたプログラムキー（ または ）を押すと、録音しておいた音声メッセージを自動送信することが出来ます。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. ( ) “セットモード” 選択
3. ( ) “F14 クイックアンサー” 選択
4. ( ) “ON” に選択
5. 電源を切り、再度電源を入れる

セットモード F14
クイックアンサー
OFF

操作のしかた（拡張機能）

F15 ワンタッチボリューム

あらかじめ機能を割りつけたプログラムキー（ または ）を押すと、音量ツマミをまわさずにワンタッチで音量を一時的に下げることができます。もう一度キーを押すと解除されます。

1.  押しながら  電源を入れる（拡張機能）

セットモード	F15
ワンタッチボリューム	
ミュート	

2.   () “セットモード” 選択  

3.   () “F15 ワンタッチボリューム” 選択  

4.   () 希望の音量減衰量を選択  

ミュート（初期値）	プログラムキーを押したとき、音が出ない状態になります。
-30%	プログラムキーを押したとき、約 30% 音量が下がります。
-60%	プログラムキーを押したとき、約 60% 音量が下がります。

5.  電源を切り、再度電源を入れる

F16 CH 空き通知

使用したいチャンネルがすでに交信中で PTT を押したときに “Wait” 表示が出た場合、もう一度 PTT スイッチを短押しすると空き通知機能が動作し、その後チャンネルが空いた状態になるとピープ音で知らせます。

1.  押しながら  電源を入れる（拡張機能）

セットモード	F16
CH 空き通知	
OFF	

2.   () “セットモード” 選択  

3.   () “F16 CH 空き通知” 選択  

4.   () 希望の動作を選択  

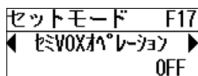
OFF（初期値）	機能は動作しません。
ON	チャンネルが空くとピープ音で通知します。

5.  電源を切り、再度電源を入れる

F17 セミ VOX オペレーション

アクセサリーの外部マイクロホンやタイピンマイクを接続して使用する機能です（p.76 参照）。アクセサリーの PTT スイッチを短押しで送信を開始し、話が終わり音声入力が無くなると自動的に待ち受けに戻ります。

1. 簡易リストの VOX 設定を“ON”に設定する（p.46 参照）。



2. 電源を切る
3. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
4. “セットモード” 選択
5. “F17 セミ VOX オペレーション” 選択
6. “ON” 選択
7. 電源を切り、再度電源を入れる
8. ディスプレイに“ ”アイコンが点灯する
9. 外部マイクロホンの PTT スイッチを短押しすると“ ”アイコンに変わると共に、送信を開始する



PTT スイッチを短押しした後に、適切な音声入力が無い場合は、送信を停止し無効ビープを鳴らして知らせます。

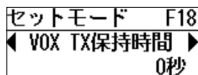
10. 話が終わると自動的に待ち受けになり“ ”アイコンに戻る

操作のしかた
（拡張機能）

F18 VOX TX 保持時間

送信から待ち受けに戻るまでの時間を調整します。必要に応じて調整してください。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. “セットモード” 選択
3. “F18 VOX TX 保持時間” 選択
4. 希望の時間を選択



0/0.2/0.5/1.0 秒（初期値：0 秒）

5. 電源を切り、再度電源を入れる

操作のしかた（拡張機能）

F19 TX AGC

内部マイクを使用中、音声の大小に応じて自動で適切なマイク感度に調整します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. ( ) “セットモード” 選択
3. ( ) “F19 TX AGC” 選択
4. ( ) 希望の動作を選択

セットモード	F19
TX AGC	
OFF	

OFF（初期値）	機能は動作しません。
ON	内部マイクを使用中、自動で適切なマイク感度に調整します。

5. 電源を切り、再度電源を入れる



- TX AGC が ON のときは、セットモード “F03 内部マイク” の設定値は無視されます。
- TX AGC は内部マイクのための機能で外部マイクでは動作しません。

F20 ACC 電源

5V の電源を必要とするアクセサリを接続する場合、この機能を ON に設定します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. ( ) “セットモード” 選択
3. ( ) “F20 ACC 電源” 選択
4. ( ) 希望の動作を選択

セットモード	F20
ACC電源	
OFF	

OFF（初期値）	機能は動作しません。
ON	アクセサリ端子から、5V の電源を供給します。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

F21 外部アクセサリタイプ

アクセサリのイヤピース・イヤホンやスピーカーマイクのスピーカーオーディオ特性を最適な特性にするための機能です。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）

2. “セットモード” 選択

3. “F21 外部アクセサリタイプ” 選択

4. 希望のアクセサリを選択

セットモード F21
外部アクセサリタイプ
OFF

OFF（初期値）	機能は動作しません。
イヤホン※1	当社指定アクセサリのイヤホンを接続したときに最適な特性に補正します。
スピーカマイク※2	当社指定アクセサリのスピーカマイクロホンを接続したときに最適な特性に補正します。 注意：VOX 機能やセミ VOX 機能をスピーカマイクで使用する場合は、VOX 動作の誤送信を防止するため、必ず「スピーカマイク」を選択してください。

5. 電源を切り、再度電源を入れる



適合アクセサリ（p.85 参照）

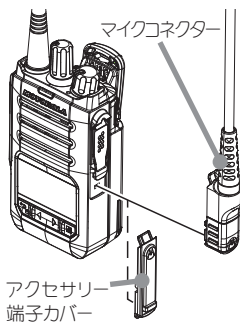
※ 1：PMLN4620、PMLN5733、PMLN7270、PMLN7269、
AARLN4885、WADN4190、RLN4941、PMLN5727、
PMLN6757、PMLN7990

※ 2：PMMN4075、PMMN4076、PMLN6635

操作のしかた（拡張機能）

外部マイクロホンの取り付け

アクセサリ端子カバーを外し、アクセサリを取り付けます。



補足

- アクセサリ端子を時々乾いた布や綿棒で拭いてください。端子が汚れていると、接触不良になって、正しく使用できなくなります。
- アクセサリを接続しないときは、アクセサリ端子カバーを取り付けてください。

F22 PTT ホールド

初期値“OFF”は  (PTT スイッチ) を押している間のみ送信し、放すと待ち受けの状態になります。

“ON” に設定した場合、 を一度押すと送信状態のままになり、もう一度押すと待ち受けの状態に戻る“ホールド機能付き PTT スイッチ”として動作します。

1.  押しながら  電源を入れる（拡張機能）
2.    “セットモード” 選択  
3.    “F22 PTT ホールド” 選択  
4.    希望の動作を選択  

セットモード	F22
PTTホールド	OFF

OFF（初期値）	機能は動作しません。
ON	ホールド機能付き PTT スイッチとして動作します。

5.  電源を切り、再度電源を入れる



連続送信時間は 5 分以内と電波法で定められています。本機では送信を開始してから約 4 分 50 秒後に「ピピピ」と警告音が鳴ります。5 分が経過する前に自動で送信が止まり、待ち受けの状態に戻ります。その後 1 分間は送信禁止状態になります。警告音が鳴った際は、速やかに送信を中止してください。



トランシーバー本体の PTT スイッチのみ PTT ホールド機能が動作します。外部マイクの PTT スイッチを押しても動作しません。なお、外部マイクを接続した状態でも、本体の PTT スイッチは PTT ホールド機能として動作します。

操作のしかた（拡張機能）

F23 スキャンタイプ

スキャン機能動作時のスキャン方式を設定します。

1.  押しながら  電源を入れる（拡張機能）

セットモード F23

2.    “セットモード” 選択  

◀ スキャンタイプ ▶
デュアルレシーブ

3.    “F23 スキャンタイプ” 選択  

4.    希望の動作を選択を選択  

プログラム（初期値）	プログラムスキャン機能が動作します。
デュアルレシーブ	デュアルレシーブ機能が動作します。

5.  電源を切り、再度電源を入れる

F24 スキャン PTT

スキャン機能動作中の PTT スイッチ操作時に送信するチャンネルを設定します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “セットモード” 選択
3. () “F24 スキャン PTT” 選択
4. () 希望の動作を選択

セットモード	F24
◀	スキャンPTT
	通話CH ▶

通話 CH (初期値)	通話チャンネルで送信します。
最終通話 CH	最後にスキャンで停止したチャンネルで送信します。
AUTO	プログラムスキャン機能使用中、スキャンチャンネルから空いているチャンネルを自動で探しだし送信します。相手の信号が十分強い状態の中で使用してください。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

補足

スキャン PTT の応用例（自動チャンネル選択の運用）

スキャン PTT を AUTO に設定し、例えばプログラムスキャンでスキャンチャンネルを 1CH と 4CH に設定後、通話チャンネルを 7CH でスキャンを開始します。この設定では、スキャン中にトランシーバーの PTT を押すと通常は 7CH で通話しますが、もし他局が 7CH を使用していた場合、スキャンチャンネル 1CH と 4CH をスキャンし、いずれか空いているチャンネルで送信を開始します。つまり、この機能を使用することで、通常の待ち受けチャンネルが使用されている場合でも、他のスキャンチャンネルが空いていれば、そのチャンネルにて即座に交信を開始できます。

自動チャンネル選択を有効に使うためには：

- ・ 相手も同じスキャンチャンネルとユーザーコードを設定する。
- ・ スキャンチャンネルを通話チャンネルと合わせて 3 チャンネル程度で運用する（音声の頭切れを防ぐため）。

操作のしかた（拡張機能）

F25 スキャン RX

スキャン機能動作後に、信号を受信しスキャンが停止した後のスキャン再開動作を設定します。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “セットモード” 選択
3. () “F25 スキャン RX” 選択
4. () 希望の動作を選択

セットモード	F25
◀ スキャンRX ▶	
	ON

ON（初期値）	通話終了後“”が点滅し、通話タイマー経過後にスキャンが再開します。
OFF	着信後、スキャンは終了し、着信したチャンネルで待ち受け動作に移行します。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

F26 スーパーセーブ

通常でもバッテリーセーブは動作していますが、このスーパーセーブはさらに強力なセーブ機能です。ON に設定すると、待ち受け状態で約 2 秒間キー操作がないと電池パックの消耗を防ぐセーブ機能が動作します。信号を受信時またはキー操作やチャンネル切り替えを行うとセーブ機能は解除されます。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. “セットモード” 選択
3. “F26 スーパーセーブ” 選択
4. 希望の動作を選択

セットモード	F26
スーパーセーブ	OFF

OFF（初期値）	機能は動作しません。
ON	スーパーセーブ機能が動作し、通常よりもより一層電池パックの消耗を防ぎます。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

補足

- スーパーセーブ機能を“ON”に設定すると、PTT スイッチを押して送信を始めた際にピープ音が鳴ります（送信ピープ）ので、鳴った後に話をしてください。スーパーセーブ機能を“OFF”に設定すると、送信ピープも“OFF”になります。
- スーパーセーブ機能を“ON”に設定すると、受信で頭切れを起こすことがあります。頭切れを防止するために、相手局についてもスーパーセーブ機能を“ON”に設定することをお勧めします。

操作のしかた
（拡張機能）

操作のしかた（拡張機能）

F27 自動電源 OFF

8 時間何も操作しないと電源の切り忘れとみなし、自動的に電源を OFF にし、電池パックの消耗を防ぐことができます。1 分前に警告音が鳴り、電源が切れます。

1. 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. () “セットモード” 選択
3. () “F27 自動電源 OFF” 選択
4. () 希望の動作を選択

セットモード	F27
自動電源OFF	
OFF	

OFF（初期値）	オフタイマーは動作しません。
ON	8 時間のオフタイマーが動作します。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

補足

自動電源 OFF の時間を変更するには、お買い上げの販売店にご相談ください。

故障かな?と思う前に

間違った操作をしていませんか?

修理を依頼される前にお確かめください。

◎ 電源が入らない!

- ・ リチウムイオン電池/パックが消耗していませんか?
▶▶▶ リチウムイオン電池/パックを充電してください。
- ・ リチウムイオン電池/パックの端子が接触不良になっていませんか?
▶▶▶ 端子を乾いた布で拭いてください。
- ・ リチウムイオン電池/パックが古くなっていませんか?
▶▶▶ リチウムイオン電池/パックの寿命です。新しいリチウムイオン電池/パックとお取り替えてください。

◎ 送信できない!

- ・ PTT（通話）スイッチを正しく押していますか?
- ・ キーロックされていませんか?
- ・ 送信出力の設定が“受信専用”になっていませんか?

◎ 通話できない!

- ・ 相手局と同じチャンネルに設定していますか?
- ・ 相手局との距離が離れすぎていませんか?
- ・ 相手局と同じ通信方式に設定していますか?
▶▶▶ 本無線機はデジタル通信方式の無線機です。アナログによる交信はできません。
- ・ 相手局と同じユーザーコードに設定していますか?
- ・ 秘話機能が動作していませんか?
▶▶▶ お互いに秘話機能を動作させ、更に秘話コードが一致しないと、交信することはできません。

定格

送受信周波数：デジタル簡易無線登録局（6.25kHz 間隔、30 波）

351.20000MHz ～ 351.38125MHz

変調方式：4 値 FSK

通信方式：単信（プレストーク）方式

送信出力：5W/2.5W/1W（+20%、－50% 以内）

低周波出力：0.7W 以上（10% 歪時）

電池持続時間：FNB-V145LI

スーパーセーブ機能 ON 時：約 16 時間

スーパーセーブ機能 OFF 時：約 13 時間

（送信出力 5W 時、送信 5、受信 5、待ち受け 90 の割合で運用時）

電源電圧：DC 7.4V ± 10%

温湿度範囲：温度 - 20℃ ～ +60℃

湿度 95%（35℃）

本体寸法：56mm（幅）× 100mm（高）× 31mm（奥行）（突起物を含まず）

本体重量：約 260g

（FNB-V145LI、アンテナ、アクセサリ端子カバーを含む）

※ 定格を予告なく変更することがあります。

※ RoHS 指令準拠

アクセサリ一覧表

品 名	型 番
薄型リチウムイオン電池/パック 1260 mAh	FNB-V144LI
標準型リチウムイオン電池/パック 2100 mAh	FNB-V145LI
急速充電器セット (CD-70+PA-55A)	VAC-70
急速充電器	CD-70
連結型充電器	CD-64
連結型充電器用 AC アダプタ	PS000369A01
ホイップアンテナ	ATU-6J
スタビーアンテナ	ATU-12J
ウルトラスタビーアンテナ	ATU-17J
ベルトクリップ	CLIP-20
リモートスピーカマイク (IP57)	PMMN4075
リモートスピーカマイク (3.5 Φオーディオジャック付)	PMMN4076
リモートスピーカーマイク用 D 型イヤホン	PMLN4620
MAG ONE 2ピースイヤホンマイク	PMLN5733
2ピースイヤホンマイク	PMLN7990
軽量ヘッドセット	PMLN6635
2ピースサーベイランスイヤホンマイク (ベージュ色)	PMLN7270
2ピースサーベイランスイヤホンマイク (黒色)	PMLN7269
コイルコード型インナーイヤホン	AARLN4885
フレックス型イヤホン	WADN4190
アコースティックチューブ型イヤホン	RLN4941
PTT マイク付き耳掛けイヤホン	PMLN5727
PTT マイク付き D スタイル耳掛けイヤホン	PMLN6757

欧字

A

ACC 電源 74

C

CD-70 22

CH 空き通知 72

F

FNB-V144LI 20, 21, 85

FNB-V145LI 20, 21, 85

I

IP67 13

L

LED インジケータ 16, 18

P

PA-55A 22

PTT スイッチ 16, 29

PTT ホールド 77

R

RX ビープ 68

T

TX ビープ 68

TXAGC 74

U

UC 54

UC 通信 25, 53

UC ベル 51, 55

V

VOX TX 保持時間 73

VOX 感度 46

VOX 機能 46

かな

あ

アイコン 17

アクセサリ 16, 76

アンサーバック 47, 70

安全上のご注意 8

アンテナ端子 16

アンテナの取り付け 18

い

イコライザー機能 44

一斉呼び出し 28, 31

イヤホン 75

インテリジェントオーディオライト
機能 45

お

音声圧縮(符号化)方式について 14

音声案内 35

音量調節ツマミ 16, 27

か

外部アクセサリタイプ 75

外部マイク 65

外部マイク口ホンの取り付け 76

拡張機能 51

各部の名称と機能 16

簡易リスト 38

き

キーロック 32, 66

キャリアセンス 24

緊急一斉 59

緊急個別 ID 59

緊急動作 36

緊急モード 67

く

クイックアンサー	37, 42, 71
グループ ID	56
グループベル	57
グループ呼び出し	28, 31

こ

構成品	15
コールチャンネル	23, 34
コールモード	51, 52
故障かな?と思う前に	83
固定宛先	59
個別宛先	58
個別通信	26, 28, 32, 47, 53
個別ベル	57
個別呼び出し	28, 31

さ

サービスモード	51, 63
左右選択キー	17

し

自局 ID	55
自局情報	50
自動電源 OFF	82
弱電界アラーム	69
充電器	21
受信専用	69
上空チャンネル	23

す

スーパーセーブ	81
スキャン PTT	79
スキャン RX	80
スキャン機能	33
スキャンタイプ	78
スキャンチャンネル登録	43
スピーカー	16
スピーカーマイク	75

せ

セカンダリ PTT	35
セットモード	62, 64
セミ VOX オペレーション	73
選択 / 機能キー	17

そ

送信出力	69

ち

着信履歴	48
チャンネル構成	23

つ

通信方式	53
通信の基本操作	27
通話タイマー	60

て

定格	84
ディスプレイ	16
デジタル簡易無線	23
デュアルレシーブ .. 33, 34, 35, 43, 78	
電源スイッチ	16, 27, 30
電池アラーム	71
電池パック	12, 15, 83
電池パックの取り付け / 取り外し .. 20	
電池パックの充電方法	21

な

内部マイク	65

の

ノイズキャンセリングマイク	17
ノイズキャンセル機能	45

は

バックライト	35
発信履歴	48
ハンドストラップの取り付け	19

索引

ひ

ビープレベル	65
秘話 ID	61

ふ

不在着信ベル	70
付録	83
プログラムキー	16, 33
プログラムスキャン	33, 43, 78

へ

ベルトクリップの取り付け	19

ほ

防水性能	13

ま

マイク	16

む

無線機情報	50
無線局登録申請	15

め

メッセージ確認	50
メッセージ送信	49

も

戻るキー	17

よ

呼び出し先	29
呼び出し方法	28
呼び出しを受けたとき	31

り

リピート再生	39

れ

連続送信時間	29

ろ

ロータリー	66
ロータリースイッチ	16, 27
ローンワーカー	37
録音メモ機能	40

わ

ワンタッチボリュウム	36, 72

メモ



MOTOROLA SOLUTIONS

仕様は改良の為、予告なしに変更することがあります。

モトローラ、MOTOROLA、モトローラ・ソリューションズ、MOTOROLA SOLUTIONS、およびモトローラのロゴマークは、Motorola Trademark Holdings, LLC. の登録商標であり、そのライセンスに基いて使用しています。

文中に記載されている他の製品名やサービス名等は、各社の商標または登録商標です。

© 2019 Motorola Solutions, Inc. All rights Reserved.

モトローラ・ソリューションズ株式会社

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目6番8号 田町ファーストビル

http://www.motorolasolutions.com/ja_jp.html



製品の不具合、故障時の修理依頼などは、ご購入された販売店までお問合せ下さい。販売店が不明な場合、または販売店からサポートが受けられない場合は、下記までお問い合わせ下さい。

TEL 0066-33-813730 (通話無料)

